

2024 年度 事業報告（概要版）

I. 法人本部

- 2024 年度 重点項目と個別目標に対する取り組み状況等 1

II. 芙蓉園

- 特別養護老人ホーム芙蓉園 4
- 短期入所芙蓉園 5
- デイサービスセンター芙蓉園 6
- 認知症対応型通所介護芙蓉園（ほのか） 7
- ヘルパーステーション芙蓉園 8
- 居宅介護支援事業所芙蓉園 9
- 南第 1 高齢者支援センター（小川あんしん相談室） 10
- 2024 年度 事業報告拠点全体（実習生・ボラ・委員会等） 11

III. 上総園

- 特別養護老人ホーム上総園 16
- 短期入所事業所上総園 17
- 上総デイサービスセンター 18
- 居宅介護支援事業所上総園 19
- 上総園ふれあいデイサービスセンター（老人） 20
- 上総園ふれあいデイサービスセンター（障害） 21
- 君津市東部地域包括支援センター 22
- 2024 年度 事業報告拠点全体（実習生・ボラ・委員会等） 23

IV. 文京拠点

- 文京湯島高齢者在宅サービスセンター 26
- 文京昭和高齢者在宅サービスセンター 27
- 昭和介護保険サービスセンター 28
- 2024 年度 事業報告拠点全体（実習生・ボラ・委員会等） 29

【法人本部】

2024 年度 法人本部 事業報告

1. 2024 年度 重点項目及び個別目標に対する取り組み状況

(○印：実施 ●印：未実施、次年度継続課題)

No	重点項目	計画の実施状況
1	経営の安定化に向けた取り組み	
	① 利用率の維持・向上及び業務効率化に向けた対策、協議	○ 法人会議において、各拠点状況について共有しながら適宜それぞれ対応を行った。
	② 予算に対する進捗管理	・稼働率等の目標と実績対比および対策の取り組み状況に対する協議。
	③ 事業計画に対する実績管理の推進	・予算対比で前月末状況を確認しながら、対応協議。
	④ 経営意識向上に向けた管理職研修の計画及び実施	○ 第6期中期計画の策定を通して、管理職として必要な経営管理手法等について学んだ。
2	適正運営に向けた内部統制の整備	
	① 法令に即した諸規程の整備、及び法人統一化に係る協議	○ 理事会において、法人規程や各拠点の規程改正を行い、運営体制の整備を図った。
	② 内部統制の整備に向けた体制整備 ・業務適正化に向けた各種協議、業務標準化 ・内部統制の構築に向けた協議	● 業務の標準化に向けた業務プロセスの整理については未実施。
3	第6期中期計画の策定	
	① 第6期中期計画の策定 ・各拠点周辺課題の整理、方向性検討 ・中長期を見据えた法人ミッション・ビジョンに係る協議 ・第6期中期計画で取り組む計画検討	○ 第6期中期計画については、外部の支援を受けながら策定を行った。 ・中期計画の策定にあたり、研修の形をとりながら、管理職として今後の拠点運営を考えていく機会を設けて進めた。 ・計画については、BSC+1 と SDGs の視点で策定を行い、経営の視点等について学んだ。

※BSC+1 は、バランススコアカードと地域福祉の視点

2. その他の取り組み目標に対する状況

(1) 理事会

NO	日 程	時 間	場 所	審議内容
1	2024 年 6 月 7 日 (金)	13:30~15:30	芙蓉園	決算・事業報告等
2	2024 年 11 月 16 日 (土)	13:30~15:30	芙蓉園	上半期会計・事業報告等
3	2024 年 12 月 21 日 (土)	13:30~15:00	芙蓉園	ハラスメント案件等について
4	2025 年 3 月 8 日 (土)	13:30~15:30	芙蓉園	事業計画・収支予算等

(2) 評議員会

NO	日 程	時 間	場 所	審議内容
1	2024 年 6 月 22 日 (土)	13:30~15:30	芙蓉園	決算・事業報告等
2	2024 年 11 月 30 日 (土)	13:30~15:30	芙蓉園	上半期会計・事業報告等
3	2025 年 1 月 18 日 (土)	13:30~15:00	芙蓉園	人事案件等について
4	2025 年 3 月 8 日 (土)	13:30~15:30	芙蓉園	事業計画・収支予算等

(3) 監事監査

NO	日 程	時 間	場 所	審議内容
1	2024 年 5 月 24 日 (金)	14:00~17:00	芙蓉園	決算・事業報告等
2	2024 年 11 月 1 日 (金)	14:00~17:00	芙蓉園	上半期会計・事業報告等

(4) 法人経営会議等については、オンラインを活用しながら概ね計画通りに開催した。

(5) 法人研修については以下の通り。

No.	カテゴリー	テーマ	実施日
1	管理職研修 (第1回)	法人ミッション・ビジョンについて ○ 第6期中期計画の策定にあたり、 管理職として計画策定に必要な考え方 や進め方に関する知識等の習得を図った。	2024/8/8~ オンライン・録画視聴
2	管理職研修 (第2回)		2024/8/22~ オンライン・録画視聴
3	管理職研修 (第3回)		2024/9/2~ オンライン・録画視聴
4	管理職研修 (計3回)	中期計画策定フィードバック ・各回ともに作成した計画に対するフィードバックを受けることで、管理職として身に着けるべき経営計画の視点や作成手法等に対して理解を深めた。	2024//10/8 2024/11/15 2024/12/19 ※ 各回ともに オンライン・録画視聴
5	コンプライアンス (法令遵守)	育児と仕事の両立支援 ・管理職として業務遂行に活かすため、マネジメントのポイントについて学んだ。	2024/11/14 ~ オンライン・録画視聴

(6) 修繕工事、設備・備品等の更新について

理事会審議案件のみ記載。それ以外の実施案件については、各拠点の事業報告に記載する。

項目名	金 額
<上総園> 上総園全館 LED 照明の導入について	39,000,000 円

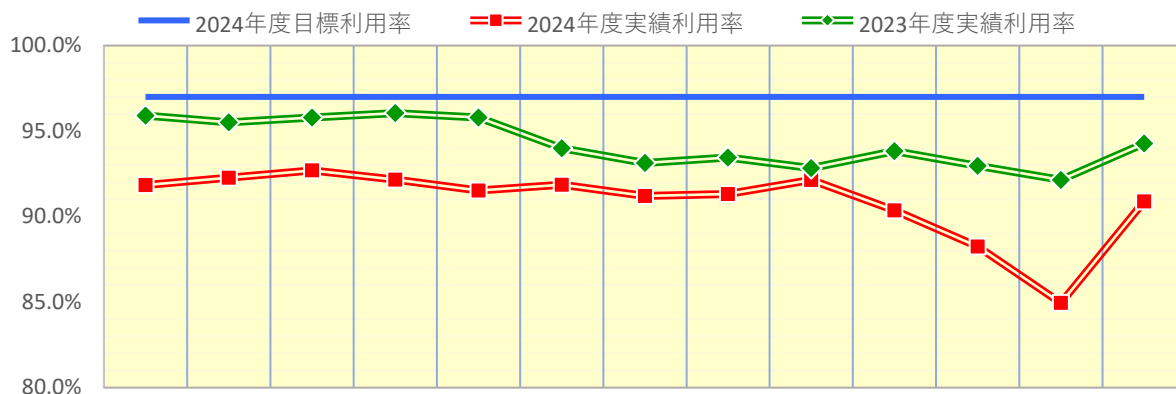
※ 上総園 LED の導入は、2025 年度に予定。(今年度は理事会審議のみ)

(7) 文京拠点 新規事業について

- 1) 旧区立特別養護老人ホーム文京白山の郷及び文京白山高齢者在宅サービスセンター等に関する事業継承者の審査への応募を行い、契約交渉順位 第 1 位との決定通知を受ける。
- 2) 2025 年 4 月から、高齢者在宅サービスセンター（向丘・本郷）、高齢者あんしん相談センター富阪・分室、シルバーピア受託事業の開始に向けて、文京拠点主体で対応を進めた。

【事業所名】 特別養護老人ホーム芙蓉園

2024年度 利用率の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度目標利用率	97.0%	97.0%	97.0%	97.0%	97.0%	97.0%	97.0%	97.0%	97.0%	97.0%	97.0%	97.0%	97.0%
2024年度実績利用率	91.8%	92.3%	92.7%	92.2%	91.5%	91.9%	91.2%	91.3%	92.2%	90.4%	88.3%	85.0%	90.9%
2023年度実績利用率	95.9%	95.5%	95.8%	96.1%	95.8%	94.0%	93.1%	93.5%	92.8%	93.8%	93.0%	92.2%	94.3%

①【目標利用率に対する実績】

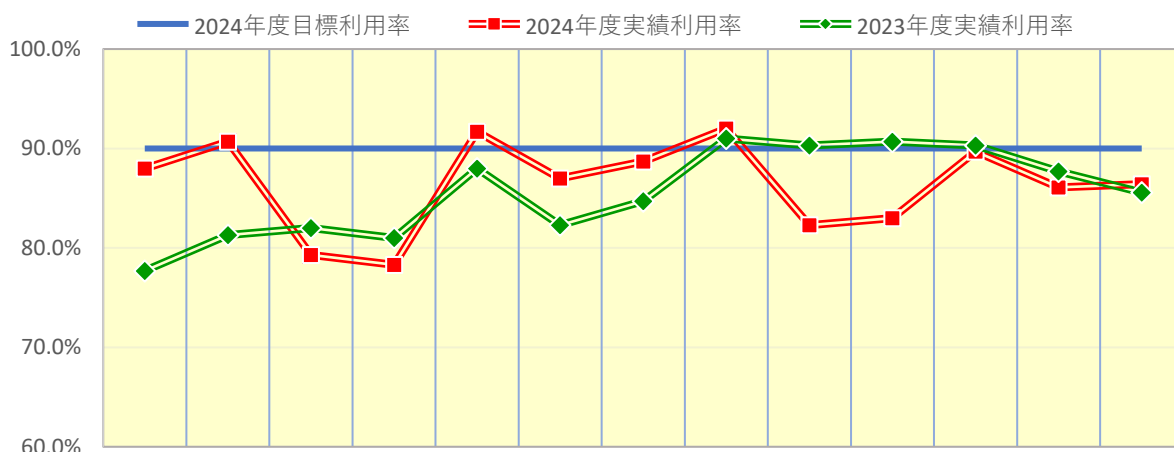
- 年間目標利用率（定員190名）97.0% → 年間実績 90.9%
▲6.1%（昨年度比▲3.4ポイント）
- 主な要因
 - 新型コロナ感染者数：職員延べ44名（昨年度64名）、利用者110名（昨年度57名）
10、11、3月を除く全ての月でコロナ感染者が発生（クラスター：6、1、2月 計4回）し、年間の感染者数（計154名）は、過去最多となった。
 - 感染者の発生により、近隣病院、老健からスムーズな入所調整が行えなかった。
 - すぐに入所を希望される申込者が依然として減少傾向にある。

②【事業計画の目標に対する取組み状況】

- 利用者に「ここで生活して良かった」と思ってもらえるよう、日常生活の充実を図る
 - 「ご利用者のやりたいこと」を抽出し、実現に向け取り組んだ（実現23個／要望63個）。
 - 「接遇チェックリスト」により、個々がケアの対応について振り返りを行った。
- 整理・整頓・清掃を行うことで清潔を保ち、快適性や安全性のもと、利用者が心地よいと感じて日常生活を過ごす事ができるよう取り組む
 - 年間のスケジュールを作成して取り組んだ事で、離床後のベッド環境整備やリネン類の整理整頓について職員間で声を掛けあう場面が増えた。個々の目標として取り組む職員もいた。コロナ閉鎖時には日頃の整理整頓が円滑な業務遂行に効果がある事を実感した。
- 職員の知識・技術の向上を図る
 - 排泄班により、研修会（外部講師）を4回実施した。利用者にとって安楽なおむつの当て方について学びを得ることができた。
 - 栄養班では、「経口摂取勉強会」を開催し、利用者の安全、安楽、自立性を高める食事形態の選択や嚥下食に関する職員への周知を行った。その他、各種マニュアルの更新を行った。
 - ポジショニング研修について、これまで未参加の職員（非常勤、看護師）含め、幅広く実施した。
- その他
 - 感染症発生後は改善点や反省点について検討し、都度、「感染症BCP」を更新した。
 - 生産性向上の取り組みとして、12月より、インカムを導入した。
 - 7月に、高齢者虐待（心理的虐待）が発生した。原因分析を行い、再発予防に向けた「改善計画（5つの目標、14つの対策）」を策定し、実行した。

【事業所名】 短期入所芙蓉園

2024年度 利用率の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度目標利用率	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%
2024年度実績利用率	88.0%	90.7%	79.3%	78.3%	91.7%	87.0%	88.7%	92.0%	82.3%	83.0%	89.7%	86.1%	86.4%
2023年度実績利用率	77.7%	81.3%	82.0%	81.0%	88.0%	82.3%	84.7%	91.0%	90.3%	90.7%	90.3%	87.7%	85.6%

①【目標利用率に対する実績】

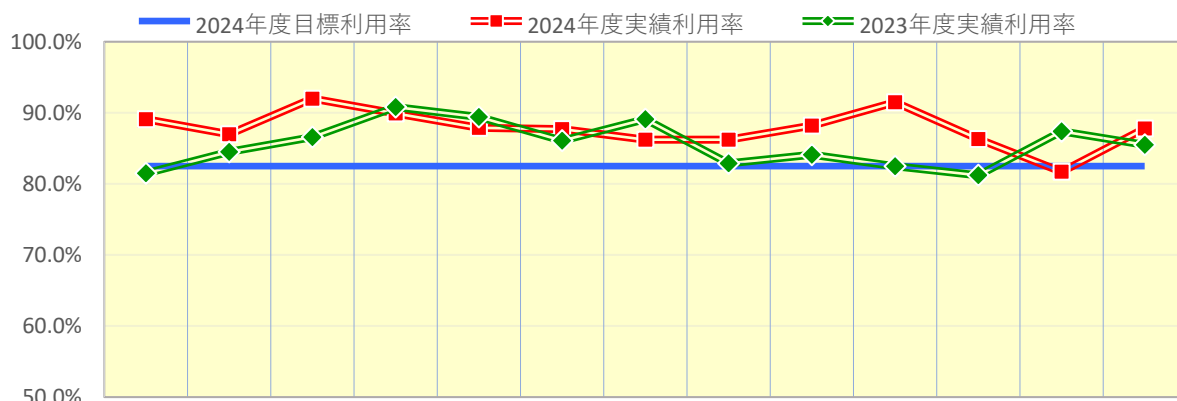
- 年間目標利用率（定員30名）90.0% → 年間実績86.4%
▲3.6%（昨年度比+0.8ポイント）
- 主な要因
 - 近年の利用状況として、定期利用から必要時利用の傾向があり、予約段階での利用率は70%台と低迷している。利用前の体験利用を提案し、少しでも空きを埋める努力をした。また、近隣医療機関のMSWとの連携を強化し、長期滞在者を利用へと繋げた。長期滞在者が7名～8名滞在している事や、緊急利用を受けた事で著しい利用率低下を防いだ。
 - 利用頻度の高い方の施設入所が相次いだことで、利用率に影響を受けた。
 - 長期滞在者から当園特養へ入所する方について、特養、短期入所SW間での進捗に関する共有不足から大幅な空き日数が生じ、特に12月は影響を受けた。
 - 6、7、12、1月は、新型コロナウイルス感染症によるキャンセルが影響している。

②【事業計画の目標に対する取組み状況】

- 接遇力の向上を図る
 - 適切な接遇の在り方について、ミーティングでの伝達や、連絡メモによる発信を通じて職員への周知を図った。
 - 虐待防止や認知症の理解、プライバシー保護は、動画を用いた研修にて実施した。
- ショートステイ利用後、入所時の心身の状態で在宅生活にもどれることを目指す
 - 入所時、入所後の情報を細かく記録する事や、連絡メモにて共有し、対応を行った。
 - インカムを導入したことで、利用者援助に必要な情報について、職員同士が適宜伝達し合えるようになり、情報の共有化が促進した。
 - 「フィットネス」と称した個別体操や運動を週2回実施することで、利用中に心身の機能が低下しないよう努めた。
- アクティビティケアの充実
 - おやつレクを月1～2回実施。季節ごとにいろいろなおやつを作り、利用者から好評を得た。
 - ボランティア（書道、折り紙、歌の会、音楽演奏会、傾聴）を積極的に導入した。
 - 体操のレパートリーを増やすとともに、利用者の希望により、カラオケや書道を実施した。

【事業所名】 デイサービスセンター芙蓉園

2024年度 利用率の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度目標利用率	82.5%	82.5%	82.5%	82.5%	82.5%	82.5%	82.5%	82.5%	82.5%	82.5%	82.5%	82.5%	82.5%
2024年度実績利用率	89.1%	87.0%	92.0%	89.9%	87.9%	87.7%	86.2%	86.2%	88.2%	91.5%	86.3%	81.7%	87.8%
2023年度実績利用率	81.5%	84.5%	86.6%	90.8%	89.4%	86.1%	89.1%	82.9%	84.1%	82.5%	81.2%	87.4%	85.5%

①【目標利用率に対する実績】

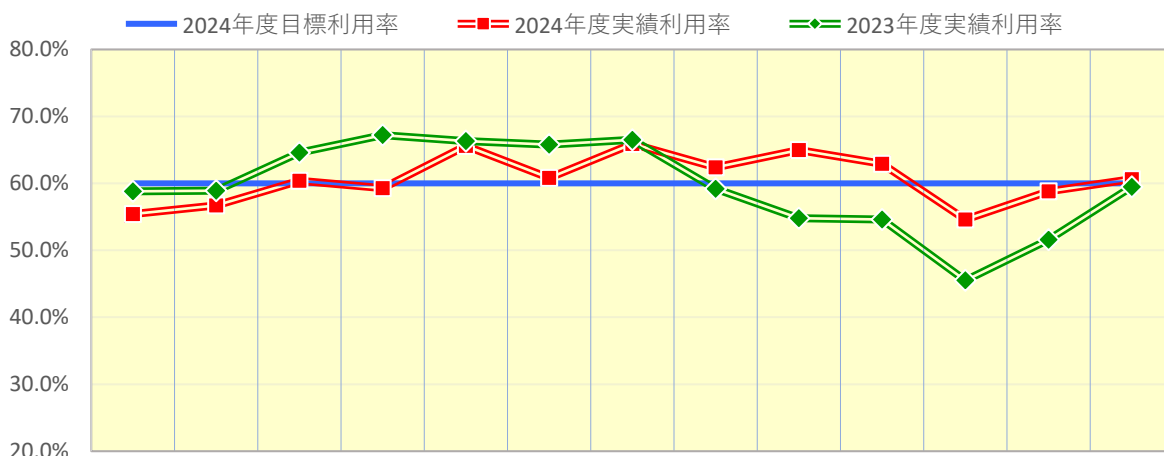
- 年間目標利用率（利用定員29名）82.5% → 年間実績87.8%
+5.3%（昨年度比+2.3ポイント）
- 主な要因
 - 中止者数（43名）が新規者数（40名）を上回ったが、4月当初より、高い利用率でスタートしたため、目標利用率を達成した。
 - キャンセル総数が増加した。内、短期入所利用が減少、入院者数は増加した。
キャンセル総数（昨年度比 +68名 延べ 昨年度 1,454名 → 当年度 1,522名）
内 短期入所（昨年度比 ▲45名 延べ 昨年度 657名 → 当年度 612名）
内 入院者（昨年度比 +44名 延べ 昨年度 165名 → 当年度 209名）
 - 利用中止の理由は、施設入所（特養、老健、有料等）が全体の40%を占めている。
 - 2024年4月より、食費（おやつ含む）を値上げした（670円→720円）。

②【事業計画の目標に対する取り組み状況】

- 心身機能を維持し、在宅生活を支援する
 - 各種季節イベント（桜花見、創作活動、外出等）の他、個別に興味を聞き活動に取り入れた。
 - 生活リハビリ（準備、片付け、テーブル拭きなど）を継続し、残存機能維持を図った。
 - 歩行運動、口腔体操、脳トレ、軽体操、個別訓練などの支援を行い心身機能の維持を図った。
- 家族や地域との関係性を維持向上する
 - 通信（月1回）やフェイスブック投稿（月1回）を活用した広報活動を行った。
 - 近隣の銀行（2行）に利用者の作品を展示した。
 - 7月に町内会夏祭りに利用者作成の団扇を寄付した。
 - 1月に利用者、家族アンケートを実施した。
利用者（69回収／98配布：回答率70%）、家族（64回収／98配布：回答率65%）
 - 3月に家族会を実施（利用者10名、家族20名参加）体操の体験会や意見交換会を実施した。
- 専門性の向上に取り組む
 - 感染症予防、ハラスメント防止、虐待防止、身体拘束排除など、職員が持ち回りで講師を務めながら知識・技術の向上を図った。
 - 8月及び2月に近隣他法人との合同研修「認知症について」を開催した。

【事業所名 認知症対応型通所介護芙蓉園（ほのか）】

2024年度 利用率の推移



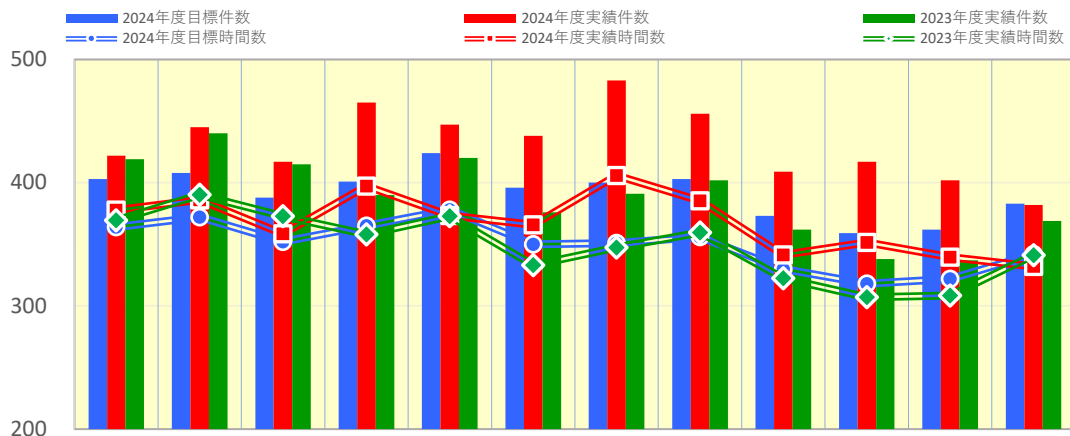
①【目標利用率に対する実績】

- 年間目標利用率（利用定員10名）60.0% → 実績60.7%
+0.7%（昨年度比+1.2ポイント）
- 主な要因
 - ・昨年度と比較して、総利用回数が上回ったことやキャンセル数が減少したため、利用率が向上した。キャンセルについては短期入所理由が最も多かった。
 総利用回数（昨年度比 +37名 延べ 昨年度 1,839名 → 当年度 1,876名）
 キャンセル総数（昨年度比 ▲36名 延べ 昨年度 162名 → 当年度 198名）
 内 短期入所（昨年度比 ▲36名 延べ 昨年度 36名 → 当年度 72名）
 - ・2024年4月より食費を値上げした（620円→670円）＊おやつ別料金 +50円

②【事業計画の目標に対する取り組み状況】

- （1）心身機能を維持し、在宅生活継続を支援する
 - ・職員全員が、科学的介護推進体制加算及びADL維持等加算について、BI（バーチャルインテグレーション）を用いて評価できるよう努めたことで、利用者の心身状態や自立度把握の認識が高まり、適切な支援を行う体制が向上した。
 - ・家事動作（洗い物、食器拭き、洗濯たたみなど）を継続し、利用者の役割達成感に繋がった。
 - ・身体体操、口腔体操、頭の体操（各1日1回以上）を毎日実施した。また、楽しく取り組めるよう、YouTubeを活用した体操を取り入れ、体操のバリエーションを増やした。
 - ・口腔体操は、嚥下力や発語力の維持を目的に発声練習と上半身ストレッチを組み合わせで行い、頭の体操は、パズルや計算問題、言葉遊びなどを取り入れて利用者同士の交流にも繋がった。
- （2）家族や地域との関係性を維持向上する
 - ・通信（月1回）やSNS（月2回）を活用した広報を行った。・近隣銀行に利用者の作品展示した。
 - ・利用者、家族アンケート（12月）及び家族会（3月）を実施した。
- （3）専門性の向上に取り組む
 - ・新人職員に対しては「介護技術チェックシート」を活用しながら、定期的に面談を行い、段階的に技術習得と知識の定着が図れる体制を整備した。
 - ・毎月1回、芙蓉園内3事業所合同による職員研修を実施した。職種や事業所を超えた交流により、視野の広がりや連携の強化にも繋がった。
 - ・8月及び2月に近隣他法人との合同研修「認知症について」を開催した。

2024年度 時間数・件数の推移



①【目標利用率に対する実績の状況】

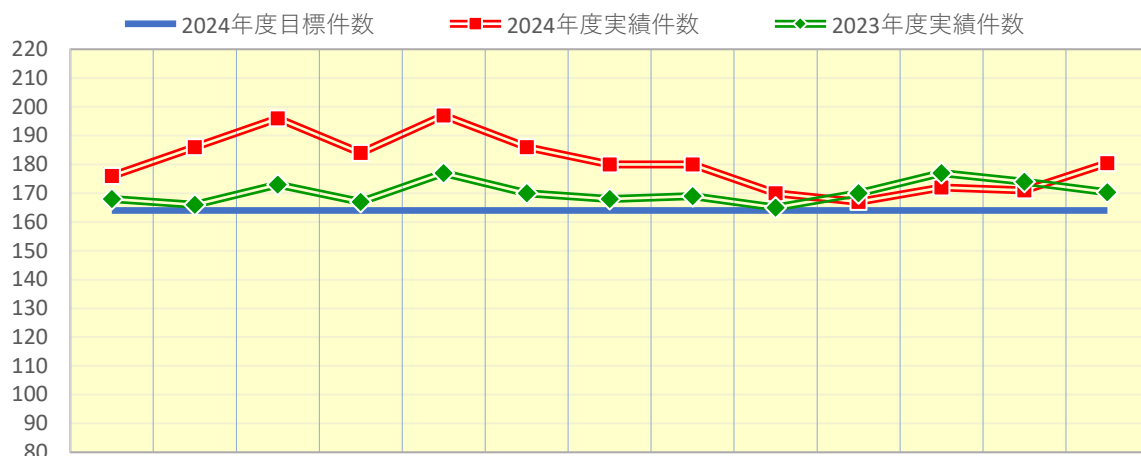
- 年間目標時間数 4,200時間 → 年間実績4,414時間 → +214時間（昨年度比+232時間）
年間目標件数 4,700件 → 年間実績 5,183件 → +483件（昨年度比+524件）
目標時間数については、過去2年を上回る実績を達成した。
- 主な要因
 - 新規契約21件に対して終結は20件となった。
 - サービス提供責任者が、利用者から寄せられる曜日や時間のニーズに対し、都度、派遣する登録ヘルパーのスケジュール調整を行いながら、迅速かつ柔軟にニーズに対応した。
- その他
 - 登録ヘルパー数が退職により減少した。
前年度18名 → 当年度16名 毎年、高齢化等の理由により減少している。
 - 特定事業所加算Ⅱを継続的に取得している。（2023年10月より算定開始）
 - 実績や、利用者情報については、居宅介護支援事業所へ直接訪問して届けることで、顔の見える関係性づくりに努めた。（年12回訪問）

②【事業計画の目標に対する取り組み状況】

- 利用者ニーズに合ったサービスを提供する。
 - 自費サービス（あったかサポート）を積極的に受け入れた。
2023年度 405時間 → 2024年度 461時間（昨年度比+56時間）
- 家族や地域との関わりを密にする。
 - サービス担当者会議に出席し、関係性やCMとの連携を密に深めた。
 - ヘルパーステーション便りを発行（年4回）し、サービス紹介を行うとともに、近況報告や研修報告などを掲載した。
- 専門性の向上を図る。
 - 登録ヘルパー向けの調理実習を2回実施した（12月、1月）。
 - 「虐待の芽チェックリスト」「接遇チェックリスト」を配布し、個々の振り返りの機会とした。
 - 個別研修計画に基づく研修を実施した（10月～12月、1月～3月）
その他、感染症予防、メンタルヘルス、事故発生防止など、計9種類の研修を開催した。

【事業所名】 居宅介護支援

2024年度 件数の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度目標件数	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164
2024年度実績件数	176	186	196	184	197	186	180	180	170	167	172	171	180
2023年度実績件数	168	166	173	167	177	170	168	169	165	170	177	174	170

①【目標利用率に対する実績の状況】

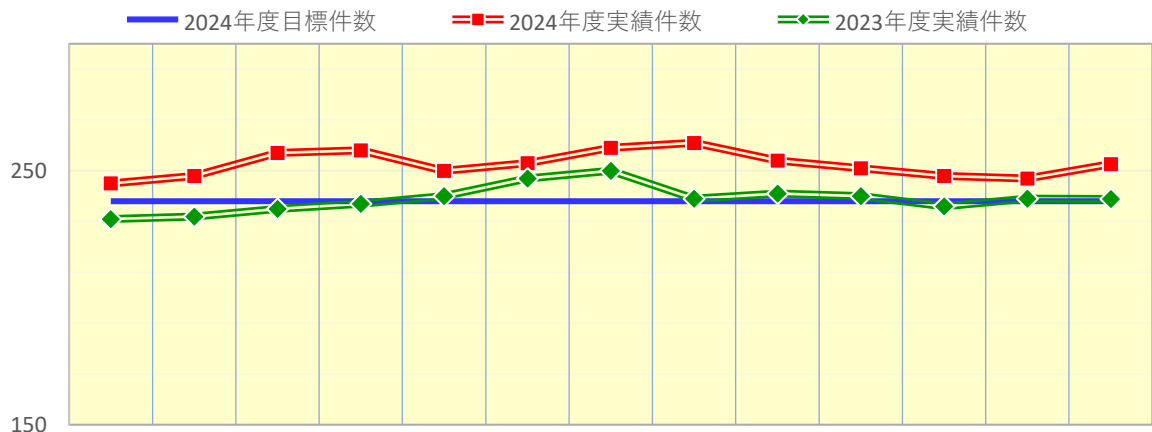
- 年間目標件数（月平均）
 - 目標件数 164件（介護134件、予防30件）/月 → 実績180件（介護159件、予防21件）
昨年度比 +10件（介護+7件、予防+3件）
 - ケアマネジャー1人当たりの担当件数（年平均）
昨年度 38.6件/1名（在籍4.3名） → 当年度 31.7件/1名（在籍5名）
昨年度比 ▲6.9件/1名
- 主な要因
 - 近隣他事業所の閉鎖やCMの退職が相次ぎ、当事業所への担当変更の依頼や新規の問い合わせが増えた。（3事業所、6名）
- その他
 - 特定事業所加算Ⅱの取得に向け、必要な要件を満たすための体制作りを行った。
 - 職員2名が主任介護支援専門員研修を受講した。2025年5月より配置となる予定。

②【事業計画の目標に対する取り組み状況】

- （1）ケアマネジメントの資質向上
 - リアセスメント支援シートについて半年毎の見直しを行いながら、詳細な課題分析を行うことで、個別性のあるニーズに沿ったプランを作成した。
 - 所内研修（月1回）を行う事で、知識・技術・手法の向上に努めた。
- （2）目標件数の達成
 - 職員個々のスキルや対応能力を把握し、持ち件数のバランスを調整した。
 - タブレットで提示した「サービス提供票」をその場で修正することで記録の手間を省いた。
 - タブレットを活用したサービス紹介により、パンフレットを後日持参することがなくなった。
- （3）地域包括ケアへの取り組み
 - 外部研修に参加し、地域包括ケアの理解を深めた。
 - 虐待疑い、ターミナルケア等、課題のあるケースについては高齢者支援センターに相談し、ケース会議等で連携、情報共有を行うことで、課題解決に努めた。
- （4）緊急時（災害、感染症等）への対応
 - 前年度に作成したBCPの中身を再検討し、見直しを行った。
 - 年2回のBCP机上訓練を実施し、災害時、感染症発生時の対応能力の向上に努めた。

【事業所名】 南第1高齢者支援センター（小川あんしん相談室）

2024年度 件数の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度目標件数	238	238	238	238	238	238	238	238	238	238	238	238	238
2024年度実績件数	245	248	257	258	250	253	259	261	254	251	248	247	253
2023年度実績件数	231	232	235	237	240	247	250	239	241	240	236	239	239

①【目標件数に対する実績】

- 年間予防プラン件数（月平均）
目標件数 238件/月 → 実績件数 253件 → +15件（昨年度比+14件）
- 主な要因
地域づくり事業推進のため、支援センター直轄のプラン数を減らし、居宅介護支援事業所へのプラン委託を進めたが、委託先である介護支援専門員の退職等による減少などの影響から、昨年度比+14件となった。

②【事業計画の目標に対する取組み状況】

- 「認知症」の垣根を超えた互いに住みやすい地域を目指す
 - 「オレンジみなみ風」にて、当事者、家族、介護予防サポーターと、南第1版アイステートメントを作成し、お互いに認知症の理解を深めることができた。
 - 認知症サポーター養成講座のテキストを用いて、高齢者、小学生、介護予防サポーター等へ、当事者や家族にスピーカーになっていただき、想いを生の声で伝えることができた。
- 生きがいをもって、いきいきと暮らすことのできる地域を目指す
 - 介護予防のための「お出かけマップ」を住民、医療や介護関係者とともに完成させ、地域住民やクリニック、地域の事業所へ配布することができた。
 - 自主グループによる発表会を開催したことでサポーターと地域団体が一つとなり介護予防を考えるきっかけづくりとなった。
- 住み慣れた地域で繋がりあえるネットワークをつくる
 - 「みなみひまわりプロジェクト」では、様々な団体や住民がひまわりというツールを用いて繋がる事ができた。ひまわりの絵や写真を展示する展覧会の開催により多世代ネットワークが広がった。
- 職員教育の充実とスキル向上
 - 毎朝 実施するミーティングにて、虐待や困難ケース等、継続相談の報告及び相談を行い、情報共有や意見交換を行う事で対応力の強化を図った。
- 小川あんしん相談室（センター分室）の運営
 - 高齢者に関する総合相談、権利擁護、認知症高齢者に関する相談支援を行った。
 - 飛び込みの来所や電話相談も増え、ランチとしての周知が広がっている。

【芙蓉園】

2024 年度 事業報告 拠点全体（実習生・ボラ・委員会・研修等）

（１）地域貢献事業

- ・ 7 月 31 日、将来の福祉人材の確保を目的とした体験教室「まちけあ☆キッズ」（町田市介護人材開発センター主催）へ、職員 3 名（介護福祉士、看護師、管理栄養士）が参加し、26 名の子供たちに様々な体験を提供した。
- ・ 近隣小学校へ発行する教育教材「産経子ども新聞」へ参画した。
- ・ こども食堂「みんなでごはん」に協賛金を提供した。
- ・ 9 月 10 日、近隣病院の防災訓練に防火管理者を含む 11 名の職員が参加した。災害時の初動訓練や炊き出し訓練などが行われた。
- ・ 近隣町内会の年末「火の用心」へ、施設管理者 1 名が参加した。

（２）実習生

- ・ 社会福祉援助技術現場実習 5 名、介護福祉士介護実習 2 名の実習生を受け入れた。教員免許課程介護等体験（東京都社会福祉協議会教員免許特例法に基づく介護等体験）の受け入れについては、要請がなく実施していない。

（３）ボランティア

- ・ デイサービスとショートステイにおいて、ボランティアの受け入れを行った。書道、折り紙、歌の会、音楽演奏、傾聴など、利用者に好評を得た。その他、ボランティアコーディネーターが、クラブ活動（個別対応）や外気浴などを行い、利用者の日常生活の質の維持に努めた。

（４）リスクマネジメント委員会

- ・ ヒヤリハットや事故の対策方法について部署毎に検討した。職員が各々連絡メモの閲覧、ミーティングなどで対策等を検討した。
- ・ KYT（危険予知トレーニング）活動は、各部署毎にテーマを決めて実施した。
- ・ 研修は、リスクマネジメント研修として「リスクに気付こう（KYT）」「誤薬をなくそう（薬の知識）」を実施した。
- ・ 年度末時点での身体拘束実施者は 3 名。内訳は、皮膚の掻き壊しや胃ろうチューブ抜去防止のミトンが 2 名。転落防止の 4 点柵が 1 名であった。その他、感染症対策のフロア閉鎖時に、利用者 3 名に対して 4 点柵を設置した。尚、閉鎖解除とともに身体拘束も解除した。
- ・ 研修は「芙蓉園版身体拘束の指針（閲覧研修）」「身体拘束とは（動画視聴 2 本）」の 2 回を実施した。

【芙蓉園】

（５）高齢者虐待防止委員会

- ・2024年7月、利用者A様の骨折事故について、行政（町田市）が利用者B様へ聞き取りを行った際、利用者B様より、介護職員による「心理的虐待」に該当する訴えが聞かれ、行政（町田市）より虐待通知を受けた（骨折事故は非該当）。利用者B様に対して、謝罪を行うとともに安全配慮策を講じ、原因分析を行いながら、再発予防に向けた「改善計画書（5つの目標、14つの対策）」を策定し、計画的に実行した。
- ・虐待防止担当者が、適切かつ即時に対応できるよう、各事業所や各課に設置している虐待防止マニュアルファイルに「指針」「手引き・フロー」「防止体制」が備わっていることを再確認した。
- ・1年を通して園内に虐待防止をテーマとした啓発ポスターを掲示した。3か月毎に各部署が持ち回りでスローガンを選定し、掲示を行うことで、意識の向上に繋がった。
- ・虐待防止研修の実施が義務化されている7事業所において、「虐待防止基礎研修」や「アンガーマネジメント研修」などを実施することで、虐待の発生防止に努めた（特養2回以上、在宅1回以上実施）。

（６）防災対策検討委員会

- ・委員による防災BCPの読み合わせにより、修正点や課題点を見出し、内容を更新した。
- ・緊急時持出袋を各部署に設置した。
- ・新規に防災用物置を設置し、防災食（5日分）を保管した。
- ・自衛消防訓練（年2回）を実施した。
- ・日中発災を想定した安否確認訓練と、被害報告訓練を実施した。
- ・近隣病院主催の防災訓練に参加をして、協力体制を確認した。
- ・風水害対策として、土嚢設置訓練を実施した。
- ・消火器及び消火栓訓練を実施した。
- ・自衛消防技術発表会に参加した。

（７）感染症対策委員会

- ・感染者が周囲で発生した場合は、園に報告するよう職員へ周知することで、接触状況等を把握し、園として速やかにまん延予防対策を施した。しかし、利用者と密接に関わる部署では、感染症のまん延を完全に防ぐことは難しく、今年度は過去最多の感染者数となった。

年度	職員	利用者	(内御逝去)	合計
2019年度	0	0		0
2020年度	2	0		2
2021年度	29	23	5	52
2022年度	84	55	2	139
2023年度	64	57		121
2024年度	44	110	7	154
計	223	245		468

【芙蓉園】

- ・感染症の発生時は、各部署の多職種と感染症対策本部が連携しながら、初動対応に努めた。
- ・感染症の発生時、早期に対応できるよう、「初動セット（感染症必要物品）」を倉庫に常備した。
- ・不要な感染対応やゾーニングの見直しを行い、職員の負担軽減を図ることにより、主要な感染対策ができるように努めたが、クラスターは防げなかった。
- ・感染症終息後の振り返りで寄せられた職員からの意見をもとに、一部マニュアルを更新した。
- ・介護職員に対しては、今年度も PPE 着脱（ガウンテクニック）の実技研修を行った事で習熟度が上がった。

（８）衛生管理委員会

- ・「感染防護マニュアル」をもとに、委員内でガウンの着脱訓練を繰り返し行ったことで委員全員が確実なガウンテクニックを身に付けることができた。
- ・「居室清掃マニュアル（終息後の居室清掃）」については、年始に発生したクラスター後の清掃の際、内容の不備、不足などの新たな課題が見つかった。改善が必要な個所を検討のうえ修正し、マニュアルを更新した。
- ・研修は、6/5「知って防ごう食中毒」11/6「嘔吐物処理法 Q 嘔吐処理法実演」を実施した。実演することにより、感染症対策の内容について、職員それぞれが理解を深めることができた。
- ・「食中毒予防に関するポスター」、「感染症予防ポスター」を流行時期に合わせて作成、掲示することで注意喚起を行った。
- ・「感染症認知度テスト」を 10 月に配布し、感染症の特性について学習する機会とした。
- ・「感染症通信」を年 2 回発行した。

（９）褥瘡防止委員会

〔排泄班〕

- ・委員会内研修を年 3 回（「下剤について」「塗布薬について」「バルーン・ストマについて」）実施した。
- ・光洋（外部講師）によるオムツ交換研修（年 4 回）を実施した。委員以外の職員も参加することができた。

〔ポジショニング班〕

- ・ポジショニングマニュアルの改訂を行い、研修を実施した。これまで参加していない職員（非常勤職員、看護師など）を優先的に実施した。
- ・体位変換チェック表の設置は適宜フロア職員で行い、チェックの表示も定着している。

〔栄養班〕

- ・職員による「経口摂取勉強会」にて、安全、安楽、自立性を高めるための食物形態の選択及び嚥下食ピラミッド（学会分類からの芙蓉園版）の周知を行った。また、利用者の身体状況に応じて、食事形態や水分のレベルについて細やかに検討し、安全な経口摂取に繋がった。
- ・口腔ケアマニュアルを更新し、委員会内にて看護師による口腔ケア研修を行った。

【芙蓉園】

（１０）ケアプラン委員会

- ・ケアプラン委員会「気になる利用者情報共有」を通じて、定期カンファレンスや、看取りへの移行などの状態変化による臨時カンファレンスを開催した。多職種で連携し、利用者の状態変化に迅速に対応する事ができた。
- ・多職種連携により利用者の心身機能維持、改善に取り組んだことで、介護度（要介護度区分の変更）を改善することができた。成果については職員へ周知することで、モチベーションの向上に繋がった（要介護改善：２０２４年度 計１３件）。
- ・全体研修（年２回実施）や個別の取り組みを通じて、ケアの集大成が看取りケアであることの周知に努める事ができた。（全体研修：９月、３月実施）
- ・ＬＩＦＥ（科学的介護推進に関する評価）については、３月現在のデータを滞りなく発送した。

（１１）イベント委員会

- ・感染症まん延の為、新年会（１月）、節分行事（２月）は実施することができなかった。それ以外の行事は実施することができた。敬老祭では外部の方を招いてコンサートを開催し、利用者の喜ぶ姿がみられた。
- ・夏祭りをフロア単位で開催した。フロアに夏祭り会場を作り、食やゲームを楽しめる店舗を出すことで、夏祭りの雰囲気を出した。
- ・行事の日には、季節を感じられる献立や、お膳には行事に纏わる内容を記したカードを乗せた。カードを居室に飾る利用者もあり、好評であった。
- ・委員会の企画として、花見の時期に桜を見ながら、お汁粉会、近隣公園への散歩、傾聴、アニマルセラピーを実施した。
- ・傾聴の際に利用者から「お抹茶が飲みたい」「自分で衣類を選びたい」等の声が聞かれたため、お抹茶を楽しむ会や衣類の移動販売を行い、個々の想いを実現することができた。

（１２）安全衛生委員会

- ・例年、転倒によるケガにて労災申請をした職員がいることから、年度初めに、転倒災害の注意喚起を行うとともに、転倒予防体操の紹介を行った。
- ・療養中から職場復帰するにあたり、産業医との面談を積極的に行い、医師の意見を聞きながら職場復帰プログラムを作成し、園として職員の復職に向けた支援に努めた。
- ・全体職員健診では、産業医からの受診推奨となった職員のうち、昨年度受診に至った割合は３割弱であったが、今年度は４割強となった。産業医からの推奨はないが自分で受診した職員もあった。改めて、園から職員へ封書で受診のための紹介状を渡した事や、採血結果から考えられる疾患のリスクについて、産業医からも注意喚起を行った事で、意識が高まったと考える。
- ・健康増進の一環として、リラクゼーションや、パワーナップ（短時間仮眠）等の紹介、また生活習慣病と食生活について栄養課から発信した。健康づくりオンライン講座は、感染症まん延により PC 上で各自できるようにした。

【芙蓉園】

（１３）研修

- ・法定研修や加算取得条件となっている研修について、それぞれの委員会で計画的に実施した。
- ・介護福祉士国家資格については、「東京都現任介護職員国家資格取得支援事業」を活用し、３名に対して実務者研修受講料等の支援を行った。
- ・無資格者に対する「認知症研修」については、eラーニング等を活用する形で、２名が受講し、修了した。
- ・法人が主催する「労務管理研修（９月）」に参加した。
- ・園内研修としては、「育児と仕事のマネジメント研修（１１月）」を開催した。
- ・外部講師による「人事考課中間評価研修（１０月）」を開催し、面談、評価、フィードバック方法について学んだ。

（１４）苦情対応

- ・「社会福祉法人芙蓉会苦情対応規程」に基づき、苦情受付担当者を設置し、苦情があった際は、迅速かつ円滑な解決に努める事ができるよう体制を整えた。今年度、苦情に関して第三者委員や市へ報告を上げる事例は無かった。日々の利用者及び家族からの各種相談（要望、希望、期待など）については、各担当窓口において対応した。

（１５）入・退職状況

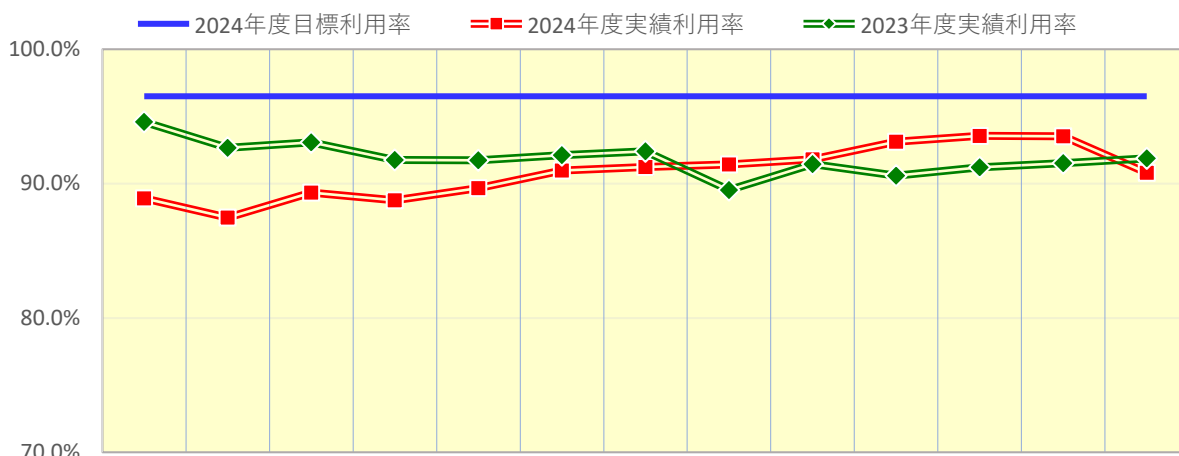
- １）採用 常勤（１６名）、非常勤（１３名）
- ２）退職 常勤（２１名）、非常勤（１７名）
- ３）離職率 １７.１％（休職者除く） 昨年度比▲１.３％

（名）

		介護課	栄養課	総務課	福祉課	医務課	リハビリ	ショート	デイ	ほのか	居宅	ヘルパー	センター	合計	総合計
採用	常勤	11	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	2	16	29
	非常勤	6	3	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	13	
退職	常勤	13	2	0	1	0	1	1	1	0	0	0	2	21	38
	非常勤	5	4	3	0	1	1	2	0	1	0	0	0	17	

【事業所名】 特別養護老人ホーム上総園

2024年度 利用率の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度目標利用率	96.5%	96.5%	96.5%	96.5%	96.5%	96.5%	96.5%	96.5%	96.5%	96.5%	96.5%	96.5%	96.5%
2024年度実績利用率	88.9%	87.5%	89.3%	88.8%	89.7%	91.0%	91.2%	91.4%	91.8%	93.1%	93.6%	93.5%	90.8%
2023年度実績利用率	94.6%	92.7%	93.1%	91.8%	91.7%	92.1%	92.4%	89.5%	91.4%	90.6%	91.2%	91.5%	91.9%

①【目標利用率に対する実績】

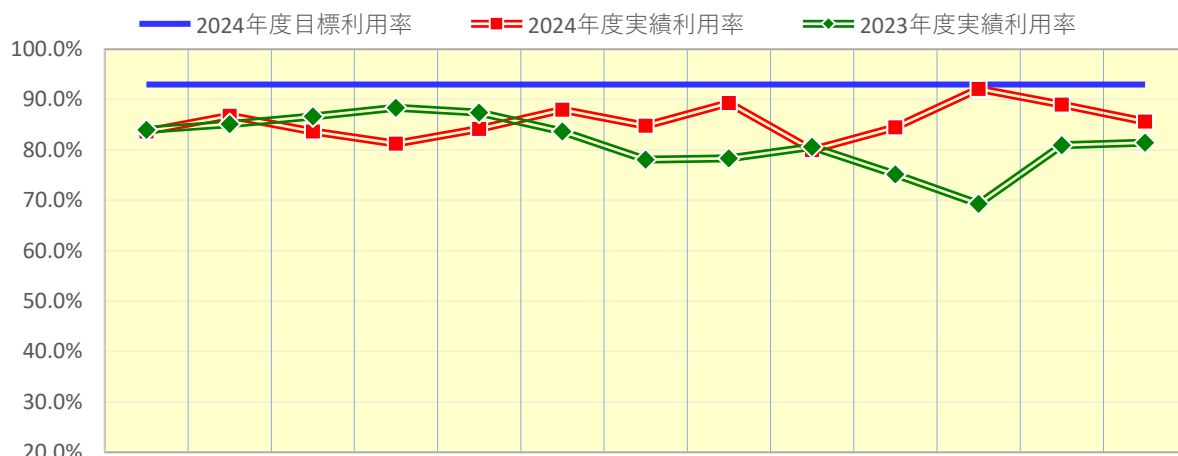
- 年間目標利用率（定員210名） 96.5% → 年間実績 90.8%
→ ▲5.7%（昨年度比 ▲1.1ポイント）
- 主な要因
 - 未達成の要因としては、退所者数が74人となり、退所者数が最も多かった昨年（76人）に続き、2番目に多かったことが挙げられる。退所者のうち50人（67.6%）は長期入院による退所であった。なお、過去3年間（2021～2023年度）の退所者数の平均は65.7人である。
 - 入院者も延べ2452人（毎月平均204.3人）に昇った。入院者のベッドをショートステイ空床利用にあてるなどの取り組みを行ったが、常に6～7床のベッドが稼働していない状況となった。入所者の高齢化、重度化、重症化傾向が続いている。
 - 新入所者は過去最大の80人を受け入れている。このうち半数の40人は隣接する老健きやらの樹ケアセンターの事業終了に伴う受入れであった。
 - 入所待機者数については、例年と大きな変化はみられなかった。

②【事業計画の目標に対する取組み状況】

- 令和3年度の介護保険制度改正に伴う義務化事項を遵守する。
 - 感染症対策についてはBCPの見直しを必要に応じて都度行っている。新型コロナウイルスが発生した際にはBCPに則った対策を講じることで、各フロアへの感染拡大を防止することができた。
 - 介護課職員2名が認知症介護基礎研修を受講し、介護スキル向上につとめた。
 - 虐待防止委員会を開催し、虐待に対する上総園の方針を職員間で共有した。
- 業務継続に向けた取組みを強化する。
 - 感染症・災害発生時の指針、BCPの整備を行い職員への周知を行った。
 - 園内研修にて新人職員を中心に園内を巡回し、災害を想定したBCPのシミュレーションを行った。
 - 地域の自治会長3名を招き、火災想定防災訓練を実施した。
- 安定的な人材の確保・育成を推進する。
 - ミッケル研修を取り入れることにより、介護課の人材育成の体系化を図った。
 - ユニットリーダー研修を受講し、リーダーの育成につとめた。
 - 施設の安定的な運営を目指し、外国人材の採用に向けた検討を行った。
 - 質の高い介護サービスを提供するため、生活相談員が1名、主任介護支援専門員の資格を取得した。
 - ハラスメント防止研修を行い、ハラスメントに対する知識および対応策について理解を深めた。

【事業所名】 短期入所事業所上総園

2024年度 利用率の推移



①【目標利用率に対する実績】

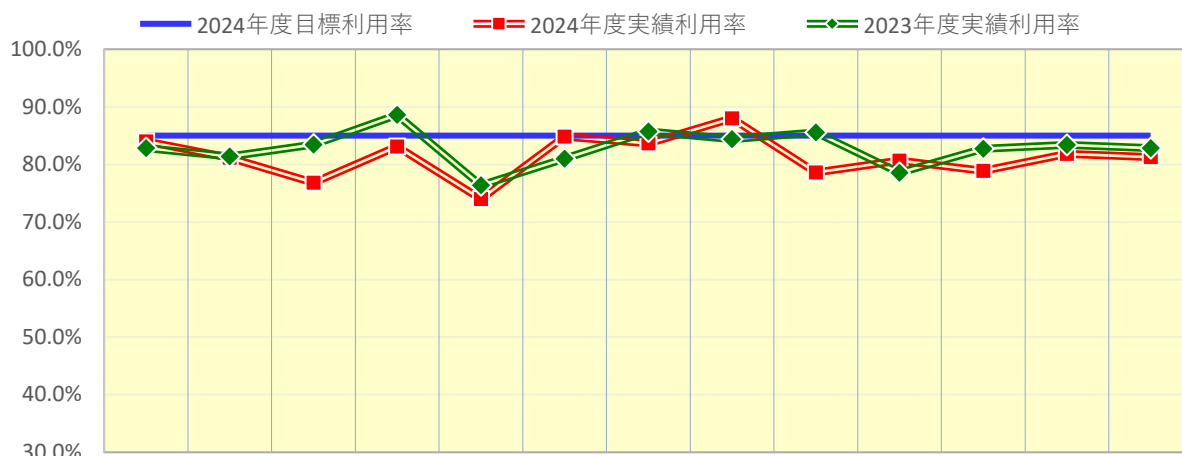
- 年間目標利用率（定員10名） 93.0% → 85.6% → ▲7.4%（昨年度比 +4.1ポイント）
- 主な要因
 - 2024年度の短期入所事業の実績利用率は85.6%であり、コロナ禍以降2年連続で増加しているものの、目標未達成となった。
未達成の要因としては、長期利用の方の入院などによる利用中止、短期入所利用者の施設入所などが挙げられる。
 - 新規利用者数は年間を通して39人であった。
積極的に新規利用の受け入れを行っているが、2023年度の50人と比較して11名減少した。
減少の要因としては、定期利用者の利用日数の増加により、空きベッドがなく新規利用者の受けが難しくなったことが挙げられる。

②【事業計画の目標に対する取組み状況】

- 利用者個々のニーズにあった適切なサービスを提供する。
 - 在宅酸素をしている方からの利用意向に対して、各課で酸素濃縮器や酸素ポンプの操作方法の確認、トラブル時の対応方法について共有し利用を継続できた。
 - リハビリに対して強い希望のある利用者に関しては、リハビリ課の協力を得て個別リハビリを行い、満足度の向上につとめた。
 - 利用者、家族からの利用日程の要望を考慮し、できる限り希望通りに利用できるよう調整を行った。
- 地域のセーフティネットとしての役割を果たす。
 - 今年度は大きな自然災害が発生せず、災害による緊急での受け入れが必要な事例はみられなかった。しかし、いつ発生するか分からない自然災害については、平時に受け入れ体制を整え、防災訓練やシミュレーションを継続して行う必要がある。
上総園で行われる消防計画に基づき定期的な防災訓練を行った。
 - 君津四市高齢者福祉施設連絡協議会緊急ショートステイ受け入れ事業において、1名を受け入れた。
定期薬の処方等のための医療機関への受診対応を行い、受け入れ後も柔軟な対応を行った。

【事業所名】 上総デイサービスセンター

2024年度 利用率の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度目標利用率	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%
2024年度実績利用率	84.0%	81.1%	76.8%	83.1%	74.0%	84.8%	83.6%	88.0%	78.6%	80.6%	78.9%	81.8%	81.3%
2023年度実績利用率	82.8%	81.4%	83.5%	88.6%	76.4%	81.0%	85.7%	84.4%	85.5%	78.5%	82.7%	83.4%	82.8%

①【目標利用率に対する実績】

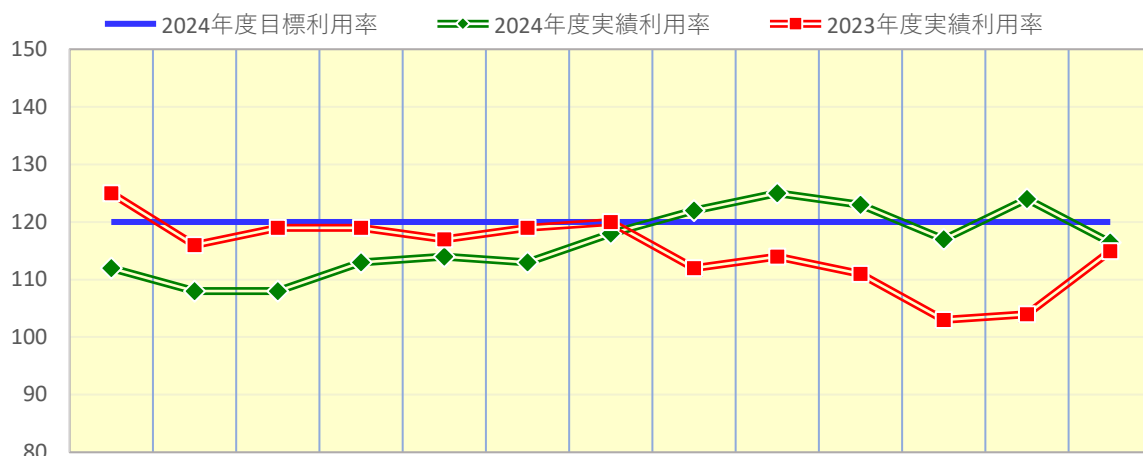
- 年間目標利用率（定員25名） 85.0% → 年間実績 81.3% → ▲3.7%（昨年度比 ▲1.5ポイント）
- 主な要因
 - 2024年度は24名の利用中止者がみられ25名（要介護14名、要支援11名）の新規受け入れを実施した。今年度はショートステイ利用による利用キャンセル者が例年に比べ多い年となり、安定した利用率確保のため新規利用や臨時希望等スムーズに利用できるよう柔軟に受け入れを行った。
 - 次年度においても目標利用率を85%とし各居宅支援事業所との情報共有を密にしながらサービス利用率の向上を目指していきたい。

②【事業計画の目標に対する取組み状況】

- 活動の充実を図り、個別ケアの質の向上を目指す。
 - レクリエーションやイベント関連では、感染症防止を念頭に置きながら定期的に行っているレクリエーション活動に加え、菖蒲湯や納涼会等のイベントを開催し、季節に因んだ楽しみが持てるよう取り組みを行った。
 - 創作活動においては、個別創作や利用者共同での作製等、個々の嗜好に合わせた創作内容を提供し、専門雑誌への投稿掲載、地域の文化祭への出展等モチベーションアップに繋げることができた。
- 定期的な研修を行い、知識・技術の向上に努める。
 - 今年度は在宅酸素を使用している方からの新規利用意向があり、操作方法や注意点等の情報を共有した他、看護師による感染症対策の基本や見直し、緊急時の対応方法について勉強会を実施した。

【事業所名】 居宅介護支援事業所上総園

2024年度 件数の推移



①【目標件数に対する実績】

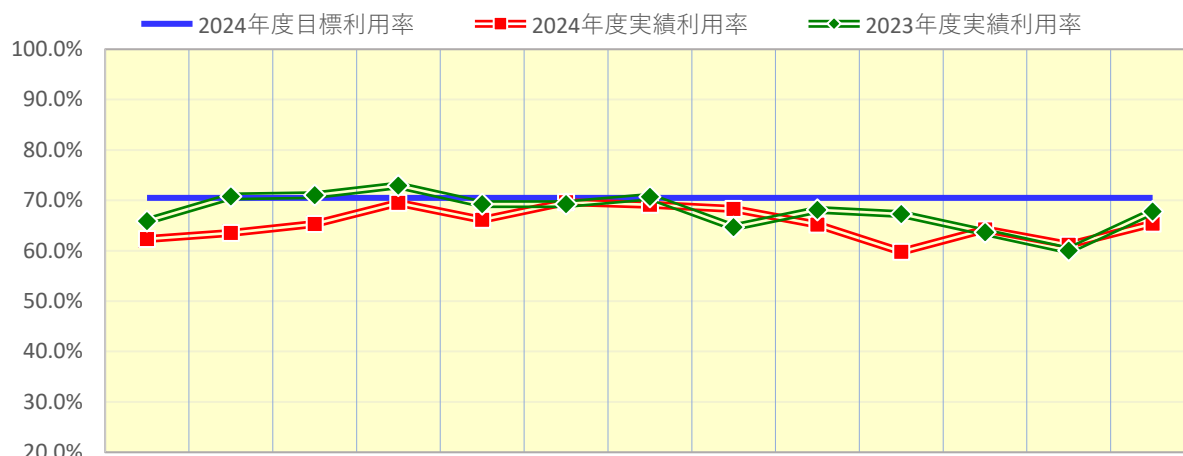
- 年間目標件数（月平均）
目標件数 120件/月 → 実績件数 116.4件 → ▲3.6件（昨年度比 +1.5件）
- 主な要因
 - 死亡、入院、施設入所等により実績が発生しない利用者があり、目標利用率を下回る月があった。
 - 君津市東部地域包括支援センターや近隣医療機関等との連携を緊密に行い、新規相談に対応した。
 - 近隣の居宅支援事業所において、事業所の休廃止や介護支援専門員の退職などがあり、新規相談が増加した。

②【事業計画の目標に対する取組み状況】

- 感染症や自然災害時等においても事業継続ができ、安定した事業運営に努める。
 - 君津市ハザードマップ（洪水、土砂災害）へ利用者宅をマーキングするなど、河川氾濫及び土砂災害リスクの高い利用者宅の把握に努めた。
 - 非常災害時の緊急連絡先・医療機関・避難所などを記入した「急変時及び災害時台帳」を更新し、利用者のリストを整備するよう努めた。
 - 事業所合同の避難訓練に参加し、参加した近隣住民に事業所内の消防設備や避難方法を説明した。
- 住み慣れた地域での生活が安心して継続できるよう適切なケアマネジメントを実践する。
 - 利用者本位のアセスメントを意識し、利用者の強みや価値観の把握に努め、潜在的なニーズや意向を引き出せるよう心がけた。
 - チームアプローチを意識し、モニタリングの場面においても利用者家族の意見だけでなく、多職種の専門性に注視し、多角的に評価できるよう取り組んだ。
 - 職員の資質向上のため、職能団体等が主催する外部研修に積極的に参加した。
 - 虐待防止や感染症対策など制度改正により義務付けられた項目についても、研修参加を促進した。
- 地域包括ケアシステムの構築に向け、その役割について理解し、主体的に取り組む。
 - 地域包括支援センター、近隣医療機関、介護サービス事業所との意見交換、情報共有に努めた。
 - 上総、小櫃地域には社会資源が少ないため、他地域の事業所へサービス提供を依頼することで、上総小櫃地域への他地域のサービス事業者の参入を促進することができた。
 - 今後は訪問介護、訪問看護等の訪問系サービス事業者との関わりを深め、利用者が希望するサービスを利用することができるよう、社会資源の発掘と確保に努めていきたい。

【事業所名】 上総園ふれあいデイサービスセンター〔老人デイサービス事業〕

2024年度 利用率の推移



①【目標利用率に対する実績】

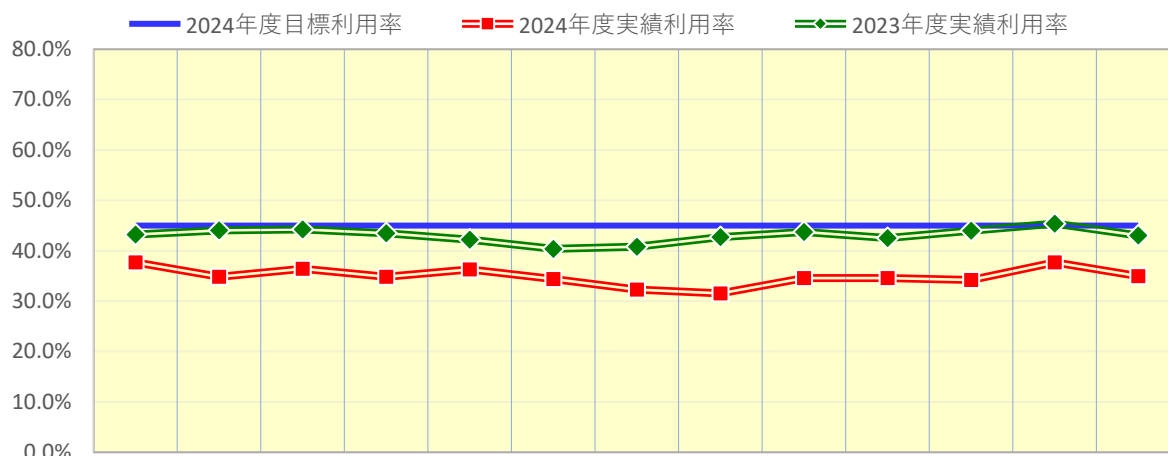
- 年間目標利用率（定員34名） 70.5% → 年間実績 65.4%
→ ▲5.1%（昨年度比 ▲2.4ポイント）
- 主な要因
 - 年度当初の利用率が低かったことに加え、12月、1月に利用者の体調不良者が多かったこと、年明けからは主介護者の入院等によるショートステイ利用者が続いたことで、利用率が低下した。
 - 新規利用者は前年並みであったが、死亡や長期入院による利用終了が例年より多かった。

②【事業計画の目標に対する取組み状況】

- 新型コロナウイルス感染症等感染症予防を徹底し、利用者・職員への感染を防ぐ。
 - 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更になったが、職員の健康管理、館内消毒、利用者迎え時の検温、手指消毒は継続した。また、デイサービス館内も定時換気を行った。
 - 単発的に職員、利用者の発症はあったが、まん延防止に努めクラスターの発生は防ぐことができた。冬季のインフルエンザ、ノロウイルスについても、発生を防止することができた。
- 医療ニーズ利用者への対応を継続する。
 - 在宅酸素の方が1名利用しており、ご家族、主治医の指示のもと、酸素量チェックなど安全管理に努めた。
 - 服薬者や入浴時の医療処置の利用者も多く、看護師が服薬介助、医療処置を適切に行っている。
- 機能訓練・リハビリ機能を強化する。
 - 利用者ニーズも高く、看護職員、介護職員で対応した。
 - リハビリ器具を使用しての訓練や、センターの長い廊下を活用しての歩行訓練に取り組んだ。
 - 作業療法として、利用者全員で「壁画」作成に取り組んだ。その他、折り紙作成での手指運動、クロスワードやナンプレなどの脳トレも行った。
 - 月1回、各曜日を通して全体レクを行い利用者の活性化に努めている。
- 君津市との新規3年契約の初年度であり、君津市との協議を密にしていく。
 - 令和5年9月に君津市との協議を行った。今後の方向性について、2025年度中に君津市として方針決定をする事が明言された。

【事業所名】 上総園ふれあいデイサービスセンター〔障害(児)デイサービス事業〕

2024年度 利用率の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度目標利用率	45.0%	45.0%	45.0%	45.0%	45.0%	45.0%	45.0%	45.0%	45.0%	45.0%	45.0%	45.0%	45.0%
2024年度実績利用率	37.7%	34.8%	36.4%	34.8%	36.3%	34.4%	32.3%	31.5%	34.6%	34.6%	34.2%	37.7%	34.9%
2023年度実績利用率	43.2%	44.1%	44.2%	43.5%	42.2%	40.4%	40.8%	42.7%	43.8%	42.5%	44.0%	45.4%	43.1%

①【目標利用率に対する実績】

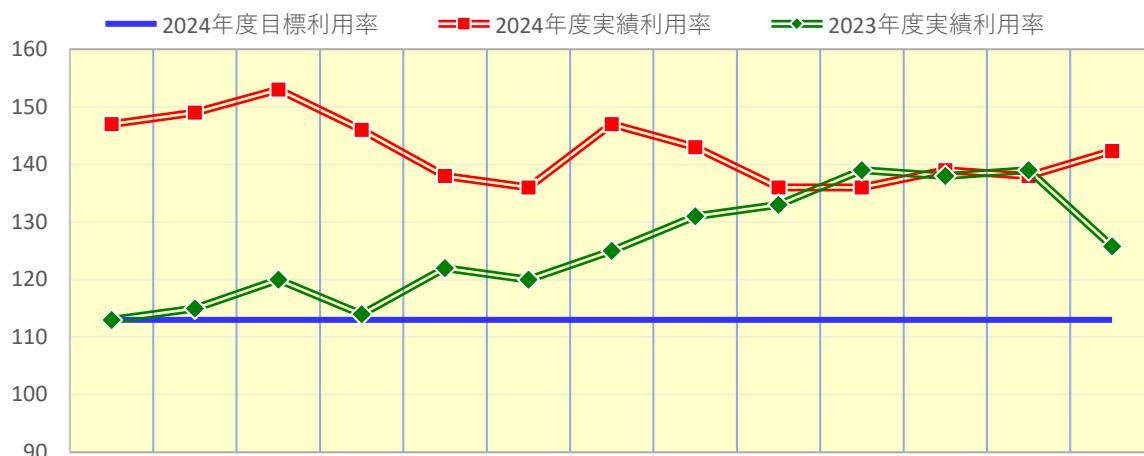
- 年間目標利用率（定員10名） 45.0% → 年間実績 34.9%
→ ▲10.1%（昨年度比 ▲8.2ポイント）
- 主な要因
 - 5月に利用者1名が死亡、8月に1名が65歳到達により老人デイサービスに移行した。この他、1名が新たに定期ショートステイ利用を開始したため、利用率が低下した。

②【事業計画の目標に対する取組み状況】

- 新型コロナウイルス感染症等感染症予防を徹底し、利用者・職員への感染を防ぐ。
 - 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更になったが、職員の健康管理、館内消毒、利用者迎え時の検温、手指消毒は継続した。また、デイサービス館内も定时換気を行った。
 - 単発的に職員、利用者の発症はあったが、まん延防止に努めクラスターの発生は防ぐことができた。冬季のインフルエンザ、ノロウイルスについても、発生を防止することができた。
- 医療ニーズ利用者への対応を継続する。
 - 胃瘻造設者3名、痰吸引が必要な利用者が2名在籍している。ご家族、主治医の指示のもと、酸素量チェック、胃瘻時の注入処置など安全に努めた。
 - 服薬者や入浴時の医療処置の利用者も多く、看護師が服薬介助、医療処置を適切に行っている。
- 機能訓練・リハビリ機能を強化する。
 - 利用者ニーズも高く、看護職員、介護職員で対応した。リハビリ器具を使用しての訓練や、センターの長い廊下を活用しての歩行訓練に取り組んだ。
 - 作業療法として、利用者全員で「壁画」作成に取り組んだ。この他、折り紙作成での手指運動、クロスワードやナンプレなどの脳トレも行った。
 - 月1回、各曜日を通して全体レクを行い利用者の活性化に努めている。
- 君津市との新規3年契約の初年度であり、君津市との協議を密にしていく。
 - 令和5年9月に君津市との協議を行った。今後の方向性について、2025年度中に君津市として方針決定をする事が明言された。

【事業所名】 君津市東部地域包括支援センター（君津市受託事業）

2024年度 件数の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度目標利用率	113	113	113	113	113	113	113	113	113	113	113	113	113
2024年度実績利用率	147	149	153	146	138	136	147	143	136	136	139	138	142.3
2023年度実績利用率	113	115	120	114	122	120	125	131	133	139	138	139	125.8

①【目標件数に対する実績】

- 年間予防プラン件数（月平均）
目標件数 113件/月 → 実績件数 142.3件 → +29.3件（昨年度比 +16.5件）
- 主な要因等
 - 平均件数は前年度より16.5件増加し、直轄での件数は336件増加の1,068件となった。一方、居宅支援事業者への委託件数は640件であり、昨年よりも80件減少した。上総、小櫃地域における介護支援専門員の不足が要因であり、要支援認定の対象者を地域の居宅支援業者に委託することができず、包括職員が担当せざるを得ない状況となっている。

②【事業計画の目標に対する取組み状況】

- 総合相談事業を通して、個別課題の解決及び地域課題の把握を行う。
 - 総合相談件数は昨年度の3,689件に対し、4,510件で821件増となった。
 - 医療や介護、権利擁護等、様々な分野や制度に関する相談があったため、センター内の各専門職と協働で対応するように努めた。
 - 昨年度の虐待対応件数は2件で、高齢者支援課や関係機関等と連携し、多様な問題を抱える対象者や家族等に対して、迅速に働きかけを行った。
 - 上総地区、小櫃地区の民生委員定例会に参加し、地域住民に関する情報の交換や共有、個別ケースの相談に応じた。
- 地域住民と連携し、住みよい地域づくりを行う。
 - 地域住民に対し認知症の予防や対応、健康管理、介護予防等について、出前講座を1年間で5回実施した。
 - 認知症サポーター養成講座は昨年度2回開催し、介護家族の会「ひろば」も参加して、認知症になっても、住み慣れた地域で安心して生活が続けていけるように取り組んだ。
 - 民生委員の定例会や公民館活動にも積極的に参加して、地域課題や生活支援ニーズ等を把握するよう心がけた。

【上総園】

2024 年度 事業報告 拠点全体（実習生・ボラ・委員会・研修等）

（１）地域貢献事業

- 地区社会福祉協議会等の地域諸団体が主催する会議や研修会、サロン活動等への委員や講師派遣など、地域の福祉力向上に貢献するための取り組みを行った。
- 2024年度も上総園を会場として上総地区介護教室を実施し、約20人の地域住民が参加した。
- 6月の大雨警報、8月の台風7号接近に伴い、福祉避難所を開設した。いずれも近隣地域に大きな被害は出ず、当園への避難者はなかった。引き続き、物品管理や情報収集など、福祉避難所としての機能を維持していく。
- 緊急ショートステイ利用事業の一環として、君津市からの依頼で1名を受け入れた。介護保険未申請、契約者不在であったため、措置による利用となった。引き続き、地域におけるセーフティネットとしての役割を担っていく。

（２）実習生

- 社会福祉士、介護福祉士、介護職員初任者研修の実習生を受け入れた。基本的な感染症対策と実習生の体調把握等に努めた。
- 社会福祉士実習については、実習指導者研修を1人が修了し、7人体制となった。介護福祉士実習についても同様に、1人が修了したことで10人体制となった。
- 専門職による実習指導体制を継続した。
それぞれの専門性に応じた視点からのアプローチ手法等について指導することで、自らの業務を振り返る機会にもなり、育成指導技術の向上に繋げることができた。

（３）ボランティア

- ボランティア受入れの再開を目指したが、近隣地域における新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症が年間を通して千葉県内で最も高い数値（2024年12月には全国3位）であり、再開に至らなかった。

（４）リスクマネジメント委員会

- 2024年度の事故発生件数は52件であり、昨年度より9件増加した。
事故の多くは転倒に起因するものであった。
- ヒヤリハット報告件数は388件であり、前年度の220件から提出件数の増加がみられた。様式を簡易なものとし、職員の負担軽減に努めた効果と思われる。
委員会においてリスク分析と事故防止策を検討し、職員への周知に努めた。
- センサーベッドや自動ブレーキ付き車椅子等の活用を継続し、事故防止に努めた。
- 2回の園内研修を行い、職員のスキルアップ、意識向上に努めた。

(5) 身体拘束廃止委員会

- ・2024年度の身体拘束は0件であった。
- ・身体拘束ゼロの継続を目指し、委員会活動や園内研修を実施した。
- ・スピーチロックへの取り組みや身体拘束に該当しない保清下着の導入など、新たな取り組みを実践し、利用者のQOL向上と職員の負担軽減に努めた。
- ・身体拘束の状況把握（ベッド位置、ベッド柵の使用状況、マットレスやセンサー等の使用状況等）をフロア単位で委員が把握し、利用者の安全確保と身体拘束ゼロの継続に努めた。

(6) 感染症防止委員会

- ・新型コロナウイルスへの対策を重点課題とし、園内の感染症対策本部と連携しながら感染症予防対策にとり組んだ。
- ・委員会活動を通し、標準予防策、ガウンやN95マスク、フェイスシールド等の適切な使用方法等についての指導や働きかけを行った。
- ・2024年度は新型コロナウイルスのクラスター発生は抑えることができた。
一方で、感染性胃腸炎（ノロウイルス、ロタウイルス）によるクラスターが2度発生しており、下痢や嘔吐への対応方法についての見直しを行った。
感染症対策にあたっては、協力病院及び君津保健所へ相談し、助言を仰いだ。
- ・委員会が主催する研修を2回実施し、感染症に関する基礎知識の修得と意識付けを行った。7月の研修では日々の手指消毒など基礎的な予防策の重要性について講義し、11月の研修では嘔吐処理についての実践的な研修を行った。

(7) 褥瘡防止委員会

- ・介助グローブの使用率が16%に留まっており、グローブを使用した背抜き的重要性を理解し、ポジショニングの際に活用できるよう研修に取り入れた。
- ・OHスケールを用いた定期的な褥瘡リスク評価を継続し、リスクの早期発見と早期対応に繋げた。
- ・年2回の園内研修を実施し、マットレスやクッション、福祉用具等の効果的な活用方法をテーマに、体験型の研修を実施した。

(8) 安全衛生委員会

- ・毎朝ラジオ体操を放送し、作業前の体操を励行した。
- ・委員会を毎月開催し、労働環境の改善をテーマに検討を行った。
- ・防災用具の点検や設備点検等を通し、職場内のリスク評価を行った。
- ・用務員1名が除草作業中に蜂に刺され、アナフィラキシーショックにより救急搬送となった。
- ・園内研修では柔道整復師を講師に招き、腰痛予防を目的とした研修を実施した。
- ・法令に基づいたストレスチェックを実施し、産業医への報告を行った。

(9) 防災管理委員会

- ・災害発生に備え、管理権限者の下に指揮班・通報連絡係、初期消火班、避難誘導班、救護班を定め役割分担表を作成し、適宜更新した。
- ・災害時に職員の召集が速やかに行えるよう緊急連絡網を作成し、適宜更新した。
- ・防災備品・非常食及び飲料水の確保に努めた。
- ・賞味期限が近付いた非常食を地域文化祭で配布し、地域連携及び地域の防災意識向上に努めた。
- ・消防に基づく消防用設備等（スプリンクラー等）の有資格業者による定期点検を6月と1月に実施した。
- ・災害伝言ダイヤル171の使用訓練を毎月1回実施した。
- ・火災、地震等の非常災害に備え、年間消防訓練計画に基づき、防火管理者の指導のもと訓練を実施した。
- ・BCP計画に沿った訓練として、地域住民参加型の訓練を実施した。

(10) 虐待防止委員会

- ・制度改正による義務化に伴い、四半期に1回、委員会を開催した。
- ・入職時研修の他、全職員を対象とした年2回の園内研修を実施した。6月の研修では高齢者虐待に関する基礎知識及び千葉県内の動向等についての講義を行い、10月の研修ではストレス対策、職員研修の重要性、組織風土や職場環境の改善をテーマに講義を行った。
- ・2024年度は上総拠点内において高齢者虐待に該当する事例は確認されておらず、次年度以降も高齢者虐待件数ゼロを継続できるよう、高齢者虐待の防止及び再発防止に向けた取り組みを継続する。

(11) 研修計画

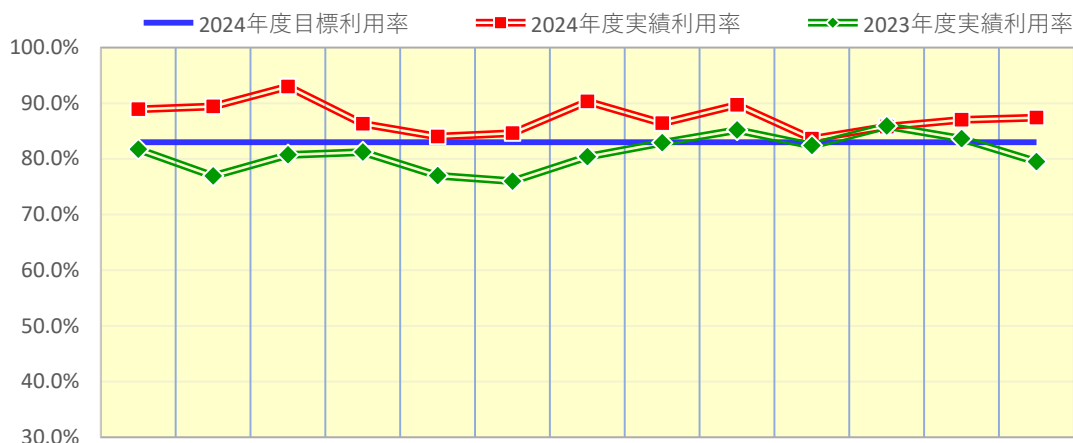
- ・研修計画に基づき、入職時研修や各種園内研修を実施した。
- ・制度改正に伴い義務化された各委員会の研修及びBCP関連の研修を行った他、法令遵守マニュアルの徹底、接遇スキルの向上やハラスメント防止に関する研修を実施した。

(12) 苦情対応

- ・面会制限の緩和等に関する要望等が確認されたが、文書による苦情申立ては0件であった。要望等については、園内で対応方法の検討を行い、適宜改善に努めた。
- ・四半期に1回、第三者委員への苦情、事故（災害）報告会を実施し、客観的な視点からの助言を得て、適宜改善策に繋げた。
- ・カスハラに関する研修とアンケートを実施した結果、128人中21人（16.8%）の職員から「カスハラを見た、経験した」との回答が得られた。次年度以降、カスハラ防止を目的とした取り組みに繋げていく。

【事業所名】 文京湯島高齢者在宅サービスセンター

2024年度 利用率の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度目標利用率	83.0%	83.0%	83.0%	83.0%	83.0%	83.0%	83.0%	83.0%	83.0%	83.0%	83.0%	83.0%	83.0%
2024年度実績利用率	88.9%	89.4%	93.0%	86.3%	84.0%	84.6%	90.3%	86.4%	89.7%	83.6%	85.8%	87.0%	87.4%
2023年度実績利用率	81.7%	76.9%	80.7%	81.2%	77.0%	76.0%	80.4%	82.9%	85.2%	82.4%	85.9%	83.6%	79.5%

①【目標利用率に対する実績】

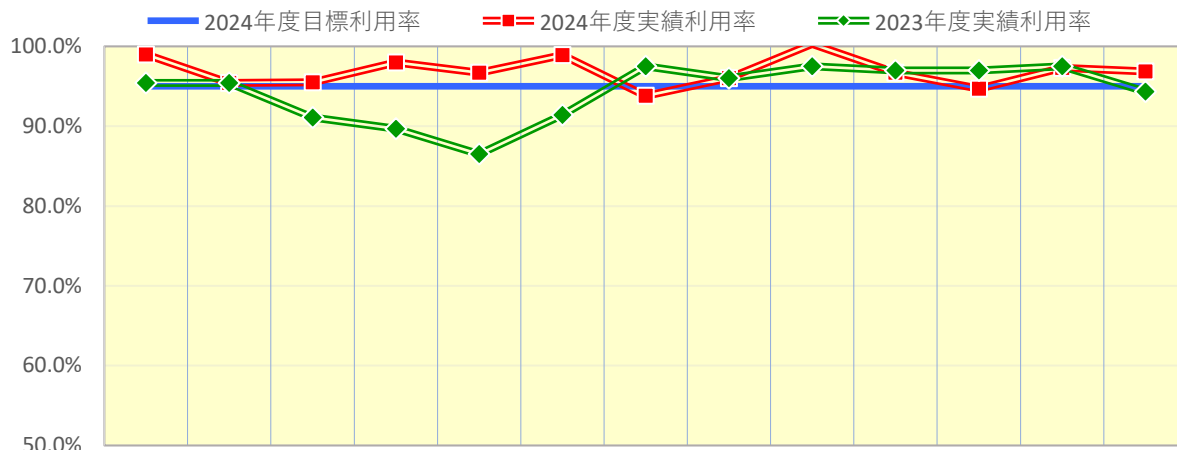
- 年間目標利用率（利用定員35名）83.0% → 年間実績 87.4% → +4.4%
 - 四半期ごとの利用率で見ていくと、第1 90.4%、第2 84.9%、第3 88.8%、第4 85.5%、最高は6月に93.0%の利用率であった。
- 主な要因
 - 8月の利用率低下は、利用者のコロナ陽性（13日）、受診体調不良休み（73日）、都合休み（55日）等で平月より休みが増えたことによる。
 - 9月の利用率低下は、持病の悪化による入院が前月4名21日から7名44日になったことによる。
 - 1月の利用率低下は、前月終了5名（入所2名、入院2名、ご逝去1名）と、さらに終了2名（気持ちが向かず1名、ご逝去1名）と登録者数が減少したことによる。
 - 年間新規利用者は62人（前年48名）、増回や振替利用にも柔軟な対応を続け、下半期は87.1%、年間利用率 87.4%を達成することができた。

②【事業計画の目標に対する取り組み状況】

- アクティビティについて
 - 昨年度に引き続き、年間行事の「夏祭り」「望年会」「敬老会」「花見」等を行った。「夏祭り」「望年会」では「ノンアルコールのビール・梅酒」等の提供、「夏祭り」では「焼き鳥」、「花見」では近所の公園までの「外出」を行い甘酒やお花見御膳の提供を行った。日々の活動の見直しを行い、「持ち帰り作品作り」や春と秋に季節を感じられる「おやつ作り」等の活動も定期的に行い、年間行事と日々の活動の両方から利用者の楽しみや満足につなげることができた。
- 加算について
 - 2023年度から科学的介護情報システム「LIFE」の算定に向けた準備を進め、2024年度は「科学的推進体制加算」「個別機能訓練加算Ⅱ」を算定した。
- その他の取り組み
 - 「ゆしま便り」や「ホームページ」等のSNSで、活動時の楽しそうな利用者の様子を定期的に発信しており、評価や新規獲得にもつながったと考えている。
 - 「人事考課制度」にて、「人事考課シート」の内容を見直し、対面式の個人面談の実施を行った。今後は全職員の個人面談が行えるように、進め方を検討しさらに計画性を持ち実施していく。
 - ご家族やご本人が見学を希望される際は午前中は体操の時間帯、午後は活動の時間帯を提案しセンターの様子がわかりやすく興味を持って頂けるようご案内をしている。

【事業所名】 文京昭和高齢者在宅サービスセンター

2024年度 利用率の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度目標利用率	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%
2024年度実績利用率	99.0%	95.4%	95.5%	98.0%	96.7%	98.9%	93.8%	96.0%	100.3%	96.7%	94.7%	97.3%	96.9%
2023年度実績利用率	95.4%	95.4%	91.1%	89.7%	86.5%	91.4%	97.5%	96.0%	97.5%	97.0%	97.0%	97.5%	94.3%

①【目標利用率に対する実績】

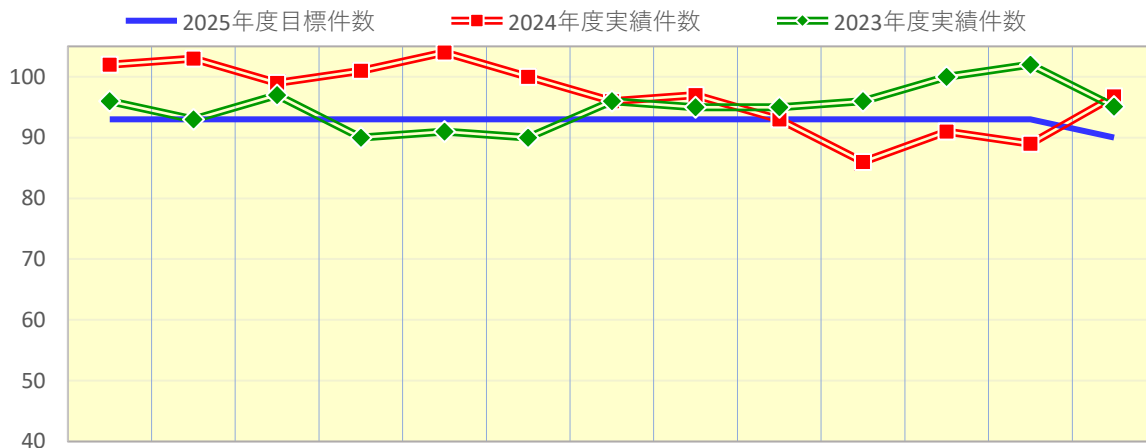
- 年間目標利用率（利用定員40人）95.0% → 年間実績 96.9% → +1.9%
昨年度利用率 94.3%に対して、+2.6ポイント
- 主な要因
 - 年間新規利用者数41人で終了者数44人を下回ったが、利用回数を増やしたいとの希望が多く寄せられ、結果的に利用率は上がった。
 - 希望の曜日や時間帯など、利用者のニーズに合わせ、送迎や受け入れ態勢を柔軟に見直し対応した。待機者が多くいたが、リストを活用し待機者を待たせないようにこまめにリストを確認し、受け入れの体制を整えることができた。

②【事業計画の目標に対する取組み状況】

- 多職種協働を更に推し進め、働きやすい環境づくりをする。
 - 多職種協働にて科学的介護システム（LIFE）への取り組みを継続。定期的にカンファレンスを開催し、利用者に関する情報の共有を行った。職員間での情報共有を円滑にする為に外国人労働者にもわかりやすい日本語に置き換えたり、マニュアルの見直しを行った。
- 活動プログラムを充実する。
 - 利用者主体で自分らしく充実した一日を過ごせるよう、個人に合った過ごし方やプログラムの提供を心掛けた。職員が仲介しなくても利用者間で相談や助け合う様子がみられ、また職員と意見交換する場面もあった。コロナで控えていた行事も再開させ、以前のような勢いが戻りつつある。利用者、利用者家族、ケアマネからも好評を頂き、長年ご利用頂いている方々も喜んで下さった。
- 加算について
 - 科学的介護システム（LIFE）を活用し、個人に合わせた自立支援を促す目標・プログラムを立案した事でフィードバックをうけられるようになった。
 - 評価対象者のADL利得が3以上、その利得をLIFE（科学的介護情報システム）に提出。利用者6ヶ月間のADL評価を行い、その結果をLIFEに提出し、平均ADL利得が3以上であることが確認できた為、2025年度からはADL維持加算Ⅱを算定する予定である。
- 安定経営への取り組みを図る
 - ホームページ・YouTubeの更新を行った。またパンフレットも改定し、見やすく内容もわかりやすくした。広報活動や空き状況のお知らせも毎月ケアマネ宛てに発行し、登録者数45を維持した。
- 目標利用率95%を達成する。
 - 希望曜日や時間帯等、利用者のニーズに合わせて柔軟に対応した。待機者リストを作成し空きが出次第順次受け入れを行った。

【事業所名】 昭和介護保険サービスセンター

2024年度 件数の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2025年度目標件数	93	93	93	93	93	93	93	93	93	93	93	93	90
2024年度実績件数	102	103	99	101	104	100	96	97	93	86	91	89	97
2023年度実績件数	96	93	97	90	91	90	96	95	95	96	100	102	95

①【目標件数に対する実績】

1. 年間目標件数（月平均）

目標件数 93件/月 → 実績件数 97件 → +4件

2. 主な要因

- ・前年度に引き続き、近隣事業所のケアマネジャーの退職が続いており、その引継ぎ依頼等で新規依頼が切れ目なくあったこと。
- ・新規事業に伴い、年度途中で新任ケアマネジャーが入職し、引き継ぎ作業が発生したが、受け持ち人数を計算しながら計画通りに進めることができたこと。

以上の要因から安定した運営を行うことが出来た。

②【事業計画の目標に対する取組み状況】

1. 在宅生活継続のための支援について

- ・超高齢化社会に伴い、独居高齢者や老々介護、多重介護等の様々な生活形態が見られるが、それぞれの生活形態に対応したケアプランを実践することができた。
- ・併設の「在宅サービスセンター」と協力して感染症対策、災害対策に特化した事業継続計画を元に、年間スケジュールに沿って見直しを行うことができた。
- ・認知症、虐待、ハラスメント等必要な外部研修への参加、事業所内研修、新人研修を行った。

2. 文京区内の他事業所との連携の充実

- ・文京区主催の「介護事業者連絡会」への出席や、地域で開催されている研修、近隣のケアマネジャー同士で行っている勉強会等に参加して連携を図ることが出来た。
- ・限られた時間の中でもオンライン（ICT）を活用し、研修や勉強会への参加が可能となった。

3. 健全経営のための目標計画件数93件達成について

- ・目標件数93件のところ、年平均97件と目標を達成することが出来た。
- ・必要な帳票類の点検・確認を各自で行った。

【文京拠点】

2024 年度 事業報告 拠点全体（実習生・ボラ・委員会・研修等）

（１）実習生

学校名	資格名	人数	受け入れ施設
東洋大学	社会福祉士	3 名	湯島・昭和
大正大学	社会福祉士	2 名	昭和
日本福祉教育専門学校	社会福祉士	6 名	昭和
文京学院大学看護学部	看護師	9 名	昭和
日本大学医学部	医師	6 名	湯島・昭和
文京区立中学校	職場体験	3 名	昭和
文京区介護施設ワークサポート事業	インターンシップ	4 名	湯島・昭和

（２）ボランティア

- 1) フルートや琴、尺八の活動をされている方々に演奏会を開催して頂いた。（湯島）
- 2) 文京区社会福祉協議会主催の「夏のボランティア体験」にて 21 名を受け入れた。（昭和）
- 3) 福音館書店の方に月 1 回 読み聞かせのボランティア活動をして頂いた。（昭和）
- 4) 認定 NPO 法人カタリバより依頼を受け、中学生ボランティアを 2 名受け入れた。（昭和）
- 5) 文京区社会福祉協議会ボランティアセンターを通じて、活動のボランティア希望の方を受け入れ、月 2 回「顔もみ・手もみ」の活動を行って頂いた。（昭和）

（３）地域交流

- 1) 「健康体操自主事業」昭和火曜体操グループへ活動支援を継続実施。（昭和）
- 2) 11/20「アクティブ介護文京」に職員を派遣。
- 3) 地域ケア会議に全 5 回参加。
- 4) 「文の京介護予防体操」の巡回指導。
- 5) 近隣の保育園・幼稚園との交流会を定期的に実施。（昭和 6 回・湯島 2 回）
- 6) 地域公益活動ネットワークへの参加及び「夢の本箱」プロジェクトへの協力。（昭和）
- 9) 「13 歳のハローワーク」事業の「社会人アドバイザー交流会」への協力。
（明治大学附属中野八王子高等学校 10 名）
- 10) 文京区介護施設ワークサポート事業のインターンシップの受け入れ。合計 4 名
- 11) シルバー人材センター「文京区介護施設お助け隊」派遣職員の受け入れ。
合計 18 名

【文京拠点】

（４）委員会 湯島一昭和会議で実施した。

- １）リスクマネジメント委員会：毎月
- ２）高齢者虐待防止委員会：４月、１０月
- ３）感染症対策委員会：６月、１２月
- ４）防災管理委員会：９月、３月

（５）研修

１）施設外研修

内容等	湯島通所	昭和通所	昭和居宅
文京区介護事業者連絡協議会	１名	０名	２４名
介護サービス事業管理者研修	１名	１名	２名
酒井医療 介護コ・クリエーションフェア	０名	２名	０名
中央区はつらつ教室見学	０名	２名	０名
千代田区マシン教室見学	０名	２名	０名
科学的介護情報システムによる科学的介護の推進	０名	２名	０名
国際福祉機器展（HCR）	１名	５名	０名
ケアマネジメント従事者研修	０名	０名	２名
認定調査員現任研修	０名	０名	２名
介護支援専門員専門研修	１名	０名	１名
文京区での多職種連携を考える会	０名	０名	２名
連携事業所主催の勉強会	０名	０名	２２名
文の京ケアマネ会	０名	０名	１名
文京区介護サービス事業部会	６名	０名	０名
あんしん相談センター元富士「認知症サポーター養成講座」	１名	０名	０名
育児と仕事の両立支援／マネジメントのポイント	２名	０名	０名
町田地域包括支援センター研修	１名	０名	０名
東京都災害福祉広域支援ネットワーク／東京 DWAT 登録研修	１名	０名	０名
東京都福祉局指導監査部「福祉系在宅サービス事業所に対する集団指導」	１名	０名	０名
地域ケア会議	０名	４名	２名

【文京拠点】

2) 施設内研修

研修項目	開催時期	研修内容等	参加人数
倫理・法令順守	4/3	基本理念等も含め、倫理・法令順守について	湯島 8 名 昭和 13 名
感染症の予防	7/3 12/2	新型コロナウイルス・ノロウイルス・インフルエンザウイルスの感染予防について 感染症対応事業継続計画（BCP）に基づいた研修や訓練（シミュレーション）を実施。	湯島 9 名 昭和 11 名 昭和 15 名
認知症のケア	8/7	認知症についての理解・デイサービスでの対応について 認知症介護基礎研修の受講(対象職員)	湯島 10 名 昭和 10 名
プライバシーの保護	1/8	デイサービスにおけるプライバシーの保護について	湯島 11 名 昭和 11 名
身体拘束・虐待防止	10/2	虐待や身体拘束の防止について	湯島 16 名 昭和 16 名
苦情・ハラスメント防止	3/6	苦情・ハラスメント防止について	湯島 15 名 昭和 15 名
活動	適宜	各活動の目的、内容の見直し等	-
事故・労働災害防止	2/5	デイサービスにおける利用者・職員の安全な作業方法について	昭和 12 名
利用者への接遇や対応	随時	利用者への接遇や食事について	-
リスクマネジメント	1/10	転倒などの事故防止について	昭和 7 名

【文京拠点】

(6) 入・退職状況（離職率等含む）

1) 入職状況

常勤職員	介護 6 名／看護 1 名／事務 1 名
非常勤職員	介護 2 名／機能訓練 1 名／看護 1 名／居宅介護支援専門員 1 名

2) 退職状況

常勤職員	介護職員 1 名
非常勤職員	介護職員 2 名／清掃 1 名

3) 復職 0 名

4) 離職率

常勤職員	3.03%
非常勤職員	15.78%

5) 2025 年度の採用予定

- ・文京昭和高齢者在宅サービスセンター
佐賀女子短期大学卒業 ミャンマー人 1 名
- ・文京向丘・本郷高齢者在宅サービスセンター
常勤 10 名 非常勤 11 名
- ・高齢者安心相談センター富坂・富坂分室
常勤 8 名 非常勤 3 名

(7) 令和 7 年 4 月からの新規事業について

1) 文京本郷高齢者在宅サービスセンター

- ・令和 7 年 3 月 10 日より事業継承の為に契約を開始。
- ・事前にご利用者ご家族、ケアマネジャー事業所にお知らせを配布し、令和 7 年 4 月 1 日～4 月 6 日は厨房や玄関等の改修工事を行う為、ご利用者にはお休みをしていただいた。その間、ご家族対応やショートステイ、他サービスの調整が難しいご利用者に関しては、東京都と文京区に相談の上、文京湯島高齢者在宅サービスセンターに場所を移し、利用していただいた。（2 名）
改修工事期間は、福音会から移行した職員に対して各日 1 名～2 名ずつ文京湯島高齢者在宅サービスセンターにて研修を実施。また、1 日の流れの検討、マニュアルについて、必要物品の購入、送迎ルートの試走（運転手）等、開設に向けた準備を行った。
- ・令和 7 年 4 月 7 日(月)よりご利用者の受け入れを開始。

【文京拠点】

前法人では昼食がお弁当だった為、厨房で作る昼食、前法人ではなかったおやつの提も大変喜ばれている。

- 一日の流れに関しては、見直しを繰り返し、定着しつつある。
- 30 名定員に対して各曜日の登録者数が 20 名に満たない曜日もある為、積極的に新規の受け入れを行っていく。また、ご家族やケアマネ事業所宛てにセンター便りを発行し、新しくなったセンターの様子や活動内容を報告し情報発信を行っている。
- 4月末には「絞り染め」にて鯉のぼりを作り、センター天井に吊るしている。季節に応じた活動や、日々のプログラムも少しずつ見直し、充実できるよう職員間での話し合いを行っている。今後も継続して行っていく。
- 令和7年4月利用率
4月1日～4月30日までの利用率 49.62% (1 週目、臨時利用 2 名のみ)
4月7日～4月30日までの利用率 60.95%

2) 文京向丘高齢者在宅サービスセンター

- 2025 年 4 月 1 日から新規事業所としてスタートしている。そこに向けて、2025 年 3 月 13 日より事業継承のための契約を開始し、長欠で 4 月 1 日以降利用のない方（復帰が未定の方）以外は全員契約が完了した。
- 4 月 1 日～6 日は改修工事のため休業をしている。
3月上旬に担当ケアマネ、利用者・利用者家族に運営法人変更に伴うご挨拶と、4/1 から4/6 には改修工事等で休業をさせていただき旨のお知らせをし、ご理解とご協力がいただけた。
ただ、中にはサービスが停止すると困るという方もおり、その間の利用を湯島もしくは昭和にて受けることは出来ないか文京区および東京都に確認したところ、諸々の事業を考慮していただき湯島昭和を利用する形で対応してもよいという回答をいただいた。その間、6 名が湯島昭和を利用した
休止期間中には、前運営法人から移ってきた職員、新たに入職した職員に向けて、湯島昭和それぞれに研修という形で出向いてもらった。
また、その間、研修に参加していない職員で営業に向けた準備を行った。
4 月 7 日から利用者を受け入れ営業を行っている。現在のところ大きな問題等なく営業が出来ている。
- 前運営法人が 2025 年 3 月まで、1 年ほど新規利用者の受け入れを停止しており、引き継いだ際は 1 日平均 15 名前後、登録としては 50 名ほどであった。
- 前運営法人が 2024 年 3 月に入浴サービスを終了していたが、2025 年 4 月 17 日より入浴サービスを再開した。3 月中にケアマネ、利用者・利用者家族にご挨拶した際に入浴サービス再開への期待も多く、4 月上旬から現在通っている方に対して希望を募り、ま

【文京拠点】

ずはその方々を優先的に調整を進めた。

現在まで徐々に希望者が増え、多い日で6名の入浴利用がある。元々当センターで入浴を利用していたがサービス中止に伴い入浴に関しては他サービスを利用している方、新規の利用者など、今後も希望者が増える見込みである。

- 昼食は前運営法人ではお弁当だったが、4月7日の営業開始からは厨房で作る昼食やお茶菓子の提供も始まっている。利用者には好評をいただいている。
- 新規の依頼や見学希望も少しずつ増えてきたが、周囲のケアマネには向丘センターが新規の受入を再開していることが十分に認知されていないかもしれないので、周知等含めて利用者獲得に向け動いていきたい。
- 令和7年4月利用率
4月1日～4月30日までの利用率 45.77% (1週目、湯島昭和への振替利用16名)
4月7日～4月30日までの利用率 54.13%

3) 高齢者あんしん相談センター富坂及び富坂分室

- 3/29～3/31 本所の引っ越しのため本所での業務を停止し、その間、分室での業務を行っていた。
- 4/1 より本所での事業を開始。新事務所への移転に伴い、ファックス番号が変わり、ファックスが届かないなどのトラブルはあったが、本所での大きな混乱はなかった。
- 分室ではインターネットが繋がらないトラブルが発生し、ようやく5/9にインターネット環境が整い、複合機での印刷やメールが利用できるようになった。区のシステムは別の回線を使用しているため、業務に大きな支障はなかった。本所から分室へファックスや電話等での連絡、書類を手渡すなどの対応を行った。
- 4月の給付管理件数 440件（委託4件含む）

内訳	予防給付	271件（うち委託4件）
	予防ケアマネジメント	169件
- 4月の主な事業及び会議
 - 4/5 シエルブルーカフェ（若年性認知症の会）支援
 - 4/10 ぶんにご富坂（認知症カフェ）
 - 4/17 包括支援センター長会、支援センター連絡会
 - 4/22 経営会議、文京拠点運営会議
 - 4/23 もの忘れ医療相談、いつつぼし（グループホーム）運営推進会議出席
 - 4/24 富坂見守り会議（みまもり相談員と文京区社会福祉協議会富坂地区担当職員）
 - 4/25 見守り全体会議（4包括みまもり相談員、区担当課）
 - 4/26 富坂包括会議